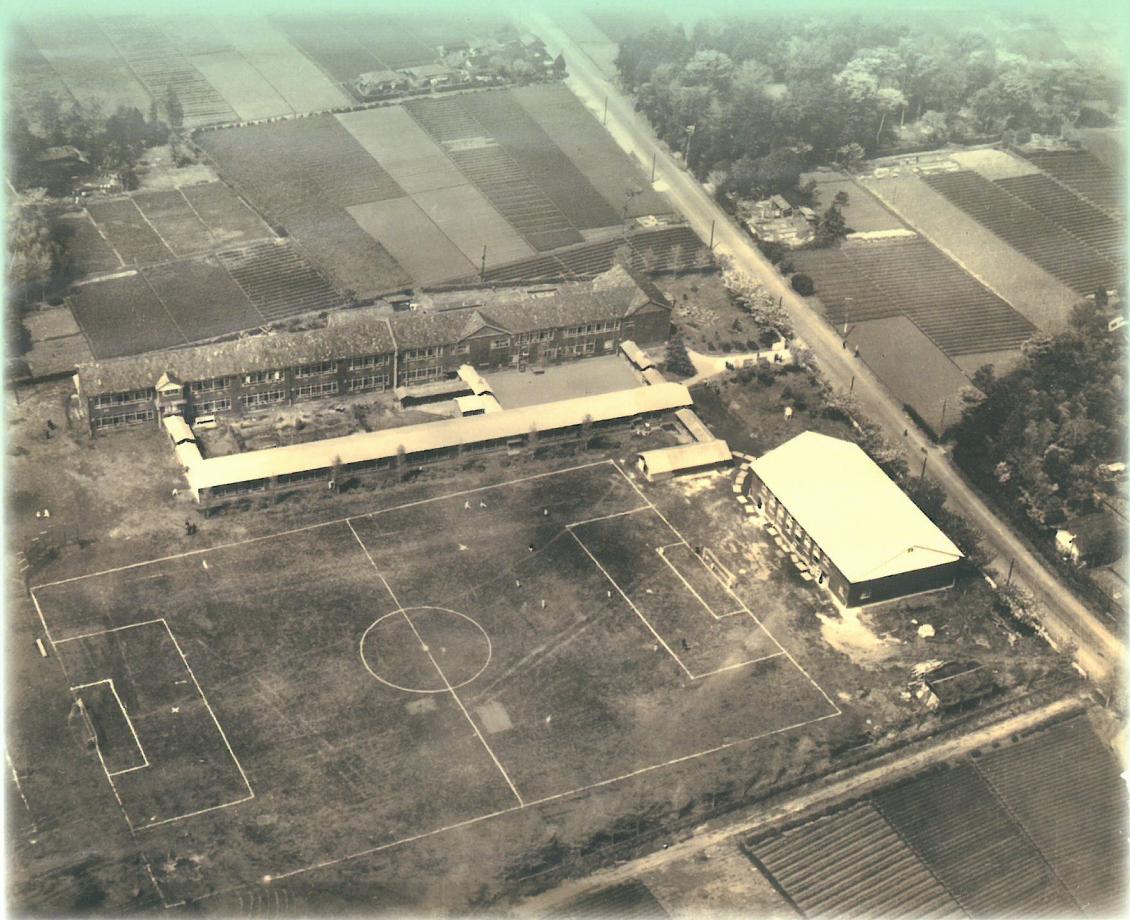


# 創立七十周年記念誌



東京都立井草高等学校





## 校 歌

作詞 土岐善磨  
作曲 芥川也寸志

はなびら影深く やえざくら咲きわたり

春また夏へ

照りそうつづじの色あざやか

希望ゆたかに

つねに友よ 胸をひらけば

親愛和氣あふれ 礼讓われら楽し

公孫樹いちょうは黄葉もみじして 風清くひるがえり

秋また冬へ

遠富士 彩雲あやぐも 雪かがやき

前途あかるく

つねに友よ 誓いかさねて

踏みゆく自主の道 協同われら楽し

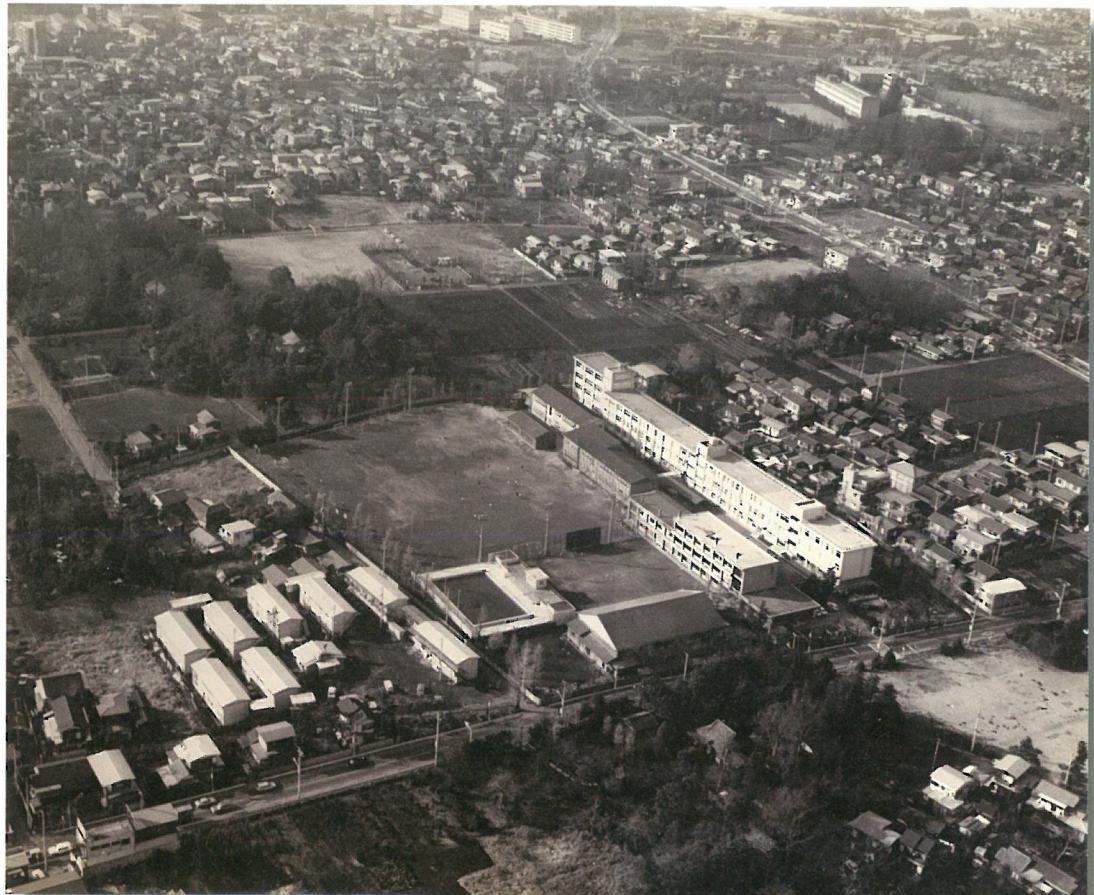
ああ井草 われら ここに

世界の前に

われらあり われらあり 井草高校

# 校舎の変遷





## 綱引き大会



## インテンシブセミナー



## 鎌倉遠足



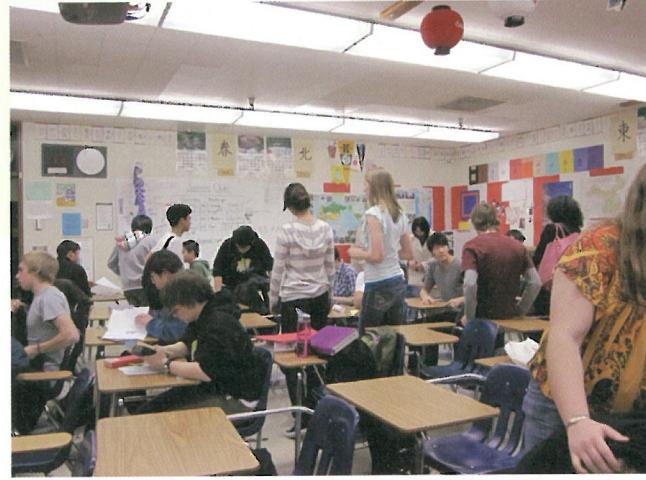
## イングリッシュキャンプ



## 体育祭



## 国際交流



# 井草祭



# 部活動



# 用 次

## 目 次

校 歌 .....		1	
写 真 .....		2	
目 次 .....		7	
挨 拶			
創立70周年を迎えて	学 校 長	浅 井 嘉 平 .....	8
祝 辞			
東京都立井草高等学校創立70周年に寄せて	教 育 長	大 原 正 行 .....	10
創立70周年を迎えて	第19代校長	赤 羽 克 己 .....	11
世界の中の井草	第18代校長	山 下 貢 .....	12
新しい変革の中での学校づくり	第17代校長	梅 村 和 伸 .....	12
井草高校70周年によせて	第16代校長	楠 原 純 子 .....	13
祝 辞	第15代校長	今 野 寛 雄 .....	13
遠い未来に想いを馳せて	第14代校長	滝 口 輝 男 .....	14
創立70周年に寄せて	P T A 会長	永 井 あけみ .....	15
都立井草高校の創立70周年をお祝い申し上げます	前井草会会长	遠 矢 良 隆 .....	15
大いなる発展を期待して 一創立70周年を迎えて	井草会会长	月 岡 健 一 .....	16
祝 70周年	いぐさ会会长	井 口 茂 .....	17
学校沿革 .....			18
井草高校の現在			
1. 進路部より	進路指導主任	黒 澤 正 信 .....	20
2. 教務部より	前教務主任	鵜 澤 裕 .....	21
3. 生徒指導部より	生活指導主任	野 村 健 一 .....	22
①井草祭		渡 邊 宏 二 .....	23
②体育祭		佐 々 木 寿 子 .....	24
③修学旅行		片 桐 秀 一 .....	25
4. 特色ある教育活動			
① I G U S A 夢 P R O J E C T	武 藤 亮 .....	26	
②国際理解教育プロジェクト	鵜 澤 裕 .....	27	
③学力向上プロジェクト	中 溝 比 呂 志 .....	28	
④街と人と地域とともに—井草の奉仕	杉 野 文 栄 .....	28	
学校経営報告 (22年度) .....			29
学校経営計画 (23年度) .....			34
学校運営連絡協議会報告 .....			37
<b>資料</b> 20年を振り返って			
1. 教職員一覧 .....			41
2. 担任一覧・卒業生数 .....			47
3. 進路資料 .....			49
編集後記			

# 創立70周年を迎えて

校長 浅井嘉平

東京都立井草高等学校は、創立70周年を迎えることになりました。この佳き日を迎えたことは、創立以来から本校の教育に多大なるご尽力とご支援をいただいた教育関係者をはじめとする地域、PTA、同窓会の皆様方のお陰と衷心より感謝申し上げます。

本校は、昭和16年東京府立第十八高等女学校として開校し、翌年に中野区鷺宮の仮校舎から現在地の地域名「井草」に移転してきたことから、東京府立井草高等女学校と名を改めました。さらに昭和23年の学制改革で定時制課程を併設する新制高等学校となり、昭和25年に現行名に改称し、同時に男女共学が始まりました。男子の最初の卒業生（昭和28年）は84名、女子が172名ですから1対2の割合でしたが、10年後には男女数の違いはなくなっています。

さて、本校は普通科の高等学校として、入学してくる生徒の多くが卒業後に大学進学を希望します。これまでの本校の教育課程の変遷を見ても、大学進学を想定した授業が行われていることから、本校の教育の大きな柱はやはり学力向上にあるといえます。

この記念誌の発刊にあたり、本校が進めている教育活動の現状について「井草」の将来像も踏まえながら述べたいと思います。

## 【学力向上プログラム】

本校に入学してくる生徒の多くは、四年制大学への進学を希望しています。当然ながら平日の授業を充実させることが最も重要です。チャイムと同時に授業が始まることはもちろんのこと、生徒の遅刻は許されない雰囲気が浸透しつつあります。進学講習として「土曜講習」、夏期集中講座「インテンシブセミナー（2年）」・「サマーセミナー（3年）」、春期集中講座「スプリングセミナー」に加えて放課後・休祭日の補講や講習会を設定しています。今夏のサマーセミナー（3年生・8日間、14科目）は、3学年の約半数以上（120名）が参加しております。さらに、実用英語検定準2級以上合格をめざす講習会を実施し、今年度6月の1次試験では、43名（内3名は1次免除）の受験で30名が合格しております。今年度も福島県羽鳥湖「ブリティッシュヒルズ」での語学研修（イングリッシュキャンプ）を実施します。



来年度の平成24年度入学生からは「土曜授業」を導入します。これまで主要教科を中心に「土曜講習」を実施してきましたが、授業時数の確保からやはり「土曜授業」が必要です。年間20日間以内との制限はありますが、「土曜講習」と並立させながら生徒の進路希望実現に向けてさらに学力向上を図りたいと考えています。

## 【国際人の育成】

わが国は、特に経済界や産業界において国際化、グローバル化が進み社会が激しく変化する時代にあります。我々日本人は、これまで以上に日本の伝統や文化を理解し継承するとともに、世界にはばたく国際人としての資質や態度を身につけなければなりません。そして、学校は日本人としての誇りと自信を持たせ、21世紀の急激に変化する国際社会に対応して忍耐強くたくましく生きる人材を育むことが重要です。

本校は、「21世紀をたくましく生きる国際人の育成」を学校経営計画の大きな柱の一つとしています。普通科教育の特色を生かしながら、日本の伝統・文化を理解し、日本人としてのアイデンティティを育み、日本を代表して世界で活躍できる国際人の育成を目指しています。

今年度は、8月の10日間の予定で豪州のシドニーでのホームステイ、イングリッシュレッスン、高校交流授業などに26名が参加します。また、7月20日～22日に米国ワシントンDC、シッドウエルフレンドズ高校などから7名の生徒が本校を訪問し、歓迎のレセプションをはじめ、ダンス部や華道部、柔剣道・弓道部と交流しました。8月25日には2011ジュ

ニアスポーツアジア交流大会に伴う文化交流で16名の生徒と交流しました。

このような国際理解教育事業の礎を築いたのは、梅村校長をはじめ歴代の校長先生並びに同窓会「井草会」、PTAの方々のご尽力によるものです。これからも国際交流の機会ができるだけ多く設けるとともに語学研修や日本の伝統・文化理解教育を進めることができることが生徒の国際人としての姿勢・態度・資質を磨くことになると考えています。来年度から海外修学旅行（シンガポール）を計画しており、新たな事業を加えながら国際理解教育事業をさらに推進させていきたいと思います。

### 【IGUSA夢PROJECT】

生徒一人一人が将来の「夢」をさがし、見つけて、つかんでいくことが大切であると考えています。本校の進路指導部が主催する1年生対象の「キャリアアップ集中講座（しごと）」は、社会の第一線で活躍する職業人を招いて、将来のビジョンや職業選択のヒントを与える講座（昨年度10講座）を開設しています。さらに1、2学年生を対象として、大学を知る、学問を知るための「アカデミック集中講座（まなび）」（昨年度16講座）を開設しています。この講座は、大学の教員においていただき、それぞれの得意分野を直接講義していただくものです。その他に、学年進行に合わせたキャリアガイダンスや受験についての基礎知識や勉強の仕方を教える「受験のABC」、保護者向けの進路勉強会として開催している「進路寺子屋」は、生徒・保護者から好評を得ております。これだけ充実したプロジェクトは、他校にはなく本校の大きな特色であると思います。

### 【他の教育活動】

部活動の加入率は、6月現在で1年生が85%、2年生77%、3年生78%でした。全体で80%を初めて超えました。近年の部活動の充実を反映していると思いますが、ここ数年の部活動の実績をみると、書道部が全国大会に10年連続15回の出場を果していることを筆頭にダンス部の22年度全国大会出場や陸上部の関東大会出場、柔道部は関東大会にもう一歩のところまでできている状況です。今年度も柔道部やダンス部、書道部が大きな実績を残すとともに他の部活動の活躍も期待できるところです。

生徒会の行事では、生徒総会、体育祭（5月）、

執行部の役員改選（6月）、球技大会（7月予定）などがありました。特筆すべきは、体育祭における生徒の「自主・自律」ある行動です。各競技終了後には、必ず「走って退場してください」の大聲での呼びかけや「ルールは守ってください。失格になりますよ」の大号令ありで、ほとんどの競技が時間通りに進行していました。昨今の井草の「自由でしまりがない」との声が聞こえていますが、生徒が主体的に行事を運営する姿に受け継がれてきた「自主・自律」の精神を垣間見たところです。加えて、平日にもかかわらず600名以上の保護者の皆様が参観に来られたことについても感心させられました。

### 【井草のこれから】

平成23年は、1000年に一度という巨大地震が東北の岩手、宮城、福島の3県を含む東日本全域に未曾有の被害をもたらしました。本校には2名の生徒が福島県から避難を余儀なくされて転校してきました。しかし、このような国難の中にあった東北の人々は、「人を思いやる気持ち」や「他者を大切にする」姿勢、態度を持ち続けていること、皆が力を合わせて復興に全力を上げている姿に感銘を受けたのは、私だけではないと思います。日本人の節度ある態度や思いやりの心は、古い時代から現代までの日本人が日本列島という環境の中で培われ、また受け継ぎながら身につけてきたものではないでしょうか。

井草の生徒もこの日本人の資質や姿勢を持っていると思います。ただ、この資質や姿勢というものは、人間にとてとても大切なものであることをしっかりと自覚させる必要があります。また、磨き、体得しなければならないと考えています。本校の真の意味での「国際人の育成」は、このような日本人が連綿とDNAの形で受け継がれてきた資質を身につけさせることです。これから巣立つ井草生が10年後、20年後、50年後になっても世界に羽ばたく国際人として活躍するために教職員が全力を尽くして邁進してまいりたいと思います。

末筆になりましたが、ご多用にもかかわらず記念誌の玉稿をお寄せいただいた皆様には、衷心より御礼申し上げます。そして、周年行事事業にご尽力いただいた同窓会「井草会」をはじめPTA、学校関係者の皆様方には、一方ならぬご支援、ご協力を賜り心よりお礼申し上げ発刊のことばとさせていただきます。

# 東京都立井草高等学校創立70周年に寄せて

東京都教育委員会教育長 大原正行



東京都立井草高等学校創立70周年おめでとうございます。

創立以来、本校に対して御理解と御支援を賜りました保護者、同窓会並びに地域の皆様に厚くお礼申し上げます。また、本校の教育の充実・発展に御尽力いただき、優れた成果を挙げてこられた歴代の校長先生をはじめ、教職員の方々の御努力に対し、深く敬意を表します。

本校は、昭和16年、東京府立第十八高等女学校として創立され、昭和17年に校名を東京府立井草高等女学校と改称されました。昭和23年に東京都立井草新制高等学校、昭和25年に東京都立井草高等学校となり、都民からも広く信頼される地域の中堅校として、歴史を重ねてきました。

本校は、開校以来22,400人を超える有為な人材を輩出しており、社会のさまざまな分野で活躍している卒業生は枚挙にいとまがありません。

現在、本校は目指す学校像として、第一は「生徒一人一人の学力を向上させ、希望する進路を実現する学校」、第二は「社会のルール・マナーを守る規範意識の育成を図る学校」、第三は「生徒会行事や部活動などの特別活動全体が活発な学校」、第四は「語学研修や国際交流事業などを通して国際人としての資質や態度を磨く学校」、第五は「特色ある伝統や学校文化を継承し保護者、地域社会から信頼される学校」を掲げています。中でも、平成15年度から3年間の重点支援校指定以来、国際理解教育に力を入れてきました。社会や経済のグローバル化が進展する中で、様々な分野の人が国際人としての資質や態度を身に付ける必要があります。こうした中で、本校が先進的な取組を継続してきたことは重要な意味をもつと考えられます。

このような教育理念の下、生徒の皆さんは、授業、教科「奉仕」での地域貢献、学校行事、部活動、国際交流などの特色ある教育活動に積極的に取り組み、一人一人の将来の夢の実現と真に社会に役立つ人間になることを目指して自己研鑽に励んでいると

聞いています。

また、本校では、卒業して10年後、28歳を目標に行う「IGUSA夢PROJECT」を平成19年度から行っています。進学指導に力点を置きつつ、実はその10年後を見据えての進路指導を実践していることこそが、進学実績を向上させて行くことの本来の意味であると考えられます。創立70周年という記念すべき節目に当たり、生徒の皆さんには、多くの先輩方が長年にわたって築き上げてきた実績と本校の取り組みを再確認し、優れた校風を受け継ぎ更に発展させるよう、充実した学校生活を送ることを期待しています。

今後とも、関係各位には、本校に対する変わらぬ御理解と御支援をお願いするとともに、本校の更なる発展を祈念いたします。



# 創立70周年を迎えて

第19代校長 赤羽克己

東京府立第十八高等女学校として、昭和16年設立された井草高等学校は、創立70周年を迎えました。この70年は、まさに震動・波瀾のわが国の歴史とともにあったと言えます。創立の昭和16年に太平洋戦争が始まり、昭和20年ポツダム宣言受諾・終戦、その後日本国憲法の公布、日米安全保障条約締結等々激変が続き昭和31年に国際連合に加盟し国際社会に復帰して行きました。昭和30年代・40年代には高度経済成長時代を迎え、バブル経済の崩壊を経て今日では、世界的に稀な少子高齢社会を経験しているところであります。

こうした歴史の大河にあって井草高校の教育は、たおやかに時には劇的に対応を重ねながら激動する社会の中、2万2千名を超える卒業生を世に送り出してきました。

井草高校開校からこのかた、幾多の困難な状況を切り拓いてこられた歴代の校長先生はじめ教職員の皆様、そして何よりも常に温かく井草高校の教育活動にご理解とご協力をいただいた保護者の皆様、さらに井草高校のすばらしい伝統を築いてくださった同窓会・卒業生の皆様とともに、創立70周年をお祝いしたいと思います。

創立50周年からすでに20年の歳月が流れていますが、とりわけこの10年間は、東京都の教育が最も激しく変化した時期でもあります。

「人事考課制度」や「主幹教諭制度」などの施策が次々と実施され、生徒の多様化や生徒数の減少等に対応するために「都立高校改革推進計画」、「第2次実施計画」「新たな実施計画」の策定が行われました。「中高一貫教育校」「チャレンジスクール」「エンカレッジスクール」等さまざまなタイプの高校が設置されるようになりました。また、学区制の撤廃により、受検生はどの都立高校でも受検できるようになるなど、「魅力ある都立高校の実現」に向けての施策が次々と打ち出されてきました。

井草高校においては、全都に先駆けて平成15年度東京都教育委員会により「都立高校重点支援校」の指定がありました。本指定を機に新たな歩みが始ま

り、今日では「自律的な改善・改革」が行われ、各方面から高い評価を得る都立高校になってきたものと確信しております。

平成20年度より井草高校は、中堅進学校から進学校に、また生徒の人間力を磨くことを目標に「感動を原動力に！生徒の人間力を伸ばす進学校」の目標のもと生徒指導に力を注いでいます。明末の儒者呂新吾の言葉に「学問の要訣は、ただ八箇の字にあり。徳性を涵養し気質を変化す」があります。

井草高校は、日々の教育活動である学習、学校行事、部活動に取り組む中から、学ぶ喜びと感動を体験し、自らの進路を切り拓く「知・情・意」のバランスのとれた生徒を育てています。生徒一人一人の学力を高め、進路実現を熱く支援し、希望大学等への進学を実現する学校、人権尊重の理念を正しく理解するとともに、社会における基本的なルール・マナーを身に付け、豊かな人間性を育成する学校、生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、社会の発展に寄与できる知識や技術を確実に身に付けることのできる学校、国際理解教育等の特色ある学校行事や部活動を通して社会性とたくましさを育成する学校を目指して、教職員一体となって学校づくりに努めてきました。お蔭様で保護者の皆様、地域の皆様から信頼され、高い評価を得るまでになってきたものと思います。ここに70年という大きな節目を迎え、次なる10年へ向けて新たな一步を踏み出そうとしている現在、改めて井草高校の教育にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 世界の中の井草

第18代校長 山 下 貢

東京都立井草高等学校70周年、おめでとうござい  
ます。私が在職しました4年間で世界の中の井草と  
いうことが一番思い出に残っています。まず、アメ  
リカのシアトル市の公立高校との国際交流です。始  
まって2年目で、事業の定着とともに、異質な文化  
との接触・吸収・変容の過程が参加生徒だけでは  
なく、学校全体の発展にどのように繋げていくかが課  
題でした。また、3年目にはPISA (Program for  
International Student Assessment) の該当校にたま  
たま選ばされました。先進国同士の学力比較を行う試  
験ですが、日本の一翼をほんの僅かですが担うこと  
になり、1年生にその意義を説明したことでした。

競争が国内にとどまらず、世界と伍していく大競  
争の時代といわれるようになって久しいなか、その  
力をどのように養っていくかが喫緊の課題となっ  
ています。高校3年間はそのような競争力を育てる土  
台作りと位置付けられます。インキュベーションの  
時期に世界と触れ合うことができる井草高校は、恵  
まれた立ち位置にあります。

国際競争力のランキングで上位を占めるアメリカ  
はその大学入試試験でも、各大学が創意工夫を凝ら  
した試験を行っています。例えば、小論文として『天  
使よ、故郷を見よ』という著作の中の「石、落ち葉、  
理由のない扉」という3つの言葉を用いて、試験官  
に自分がどういう人間であるかを伝えることを課す  
大学があります。志願者の「質」と「レベル」をあ  
る程度把握できると踏まえているからです。学科試  
験での好成績もさることながら、採点の苦労を厭わ  
ず、志願者の多様な可能性や課題対応能力を持った  
生徒を見出し、高い学力に裏打ちされた総合力を備  
えた人材を大学が求めているからです。

井草高校での3年間は、世界を視野に入れたス  
ケールの大きい人材に育っていくための土台作りで  
あってほしいと願っています。熱心な教職員と伸び  
しろのある井草生ならそれが可能である信じてい  
ます。

## 新しい変革の中での学校づくり

第17代校長 梅 村 和 伸

私は、平成12年度から平成15年度の4年間を校長  
として勤務させていただきました。

その当時は、都立高校改革が着手されてから既に  
3年が経過しておりましたが、その改革の趣旨が一  
層浸透するよう、そのための意識改革が教職員に求  
められた時でもありました。

井草高校に赴任して、強く感じたことは生徒が本  
来持っている力が十分に伸長し、發揮されていない、  
そのことによって例えば自己が望む上級学校に進学  
ができるのではないかということでした。

折しも、都教育委員会が「特色ある学校づくり」  
を推進し、その中に「重点支援校」制度が位置づけ  
られました。早速その「重点支援校」に応募し、幸  
運にもその第一期校としてスタートを切ることとな  
りました。

その制度の最大の特徴は、井草高校の特色化に賛  
同し、井草高校で勤務したいと強く希望しておられる  
先生方を推薦すれば採用していただけるということ  
でした。

このことによって、全都から素晴らしい先生方が  
多く異動してこられ、学校自体が活性化し、そして  
先生方の活力あるご指導のもとで生徒も力をつけ、  
自己が進みたい上級学校へ進むことのできる生徒が  
増え、進学状況も大きく変わったとお聞きしてお  
ります。

これらのこと語るうえで、忘れてはならないこ  
とがあります。

前述しました学校の特色化や刷新に向けた営みは  
校内の校長をはじめ教職員の力だけではなし得るもの  
ではなく、井草高校のPTA、同窓会や地域の方々の温かいご支援があつてできえたことがあります。  
当時の学校へのご支援に対しまして心から感謝を申  
しあげる気持ちでいっぱいです。

今後も、井草高校生徒のために、関係各位のご協  
力をいただいて、学校の充実発展を目指した刷新を  
重ねられ、一層素晴らしい井草高校となりますよう  
心より祈念いたします。

## 井草高校70周年によせて

第16代校長 楠 原 純子

井草高等学校が府立第18高等女学校として創立された1941年は第二次世界大戦の勃発した年である。それから1945年の敗戦を経て2011年の今日まで、井草高校の歩んできた道は戦後日本の再生復興と、繁栄、停滞の歴史の中にある。私は1939年に生まれ、自分の軌跡が井草高校のそれと時間的にほぼ重なるので、70周年という数え方は自分の歴史的実感の中で捉えられる。井草高校の「自主自由自律」という校風は井草新制高校が生まれた時代の日本人の理想であり、夢でもあった。それは空理空論ではなく実現すべき、実現可能な目標として掲げられたと思う。1960年代、70年代の若者はそういう理想の実現を目指して学び、働きかつ戦った。私はその頃の井草高校を知らないが、生徒の新生の息吹を想像できる。

桜咲くとき思ひ出す母校かなと詠んだ句友がいたが、井草の卒業生は校歌の八重桜をシンボルとして、生涯、母校を心のどこかに置いて生き、母なるものに育まれた時間として肯定してゆくのだろう。考えてみれば不思議だが、一本の鎖のようなものとして学校があり、そのどこを切っても、井草生という独特の闊達な人たちが手を繋いで現れるのだ。校風とは、時に形も取るが大体は匂いのようなものだ。「自主自由自律」はその中に入ってしまうとあって当然という匂いになってしまふ。ちょっと呑気すぎやしないかと思わないでもないが、それでいいとも言える。どっちみち時代は大きなうねりのように変化し、大抵のものを飲み込んでゆくのだから。ただ、自分の匂いに抵触するものに対しては敏感に反応し、あるべき姿を求めて欲しいと思う。それが井草生の証じやないか、とも思う。

私は丁度2000年に井草高校を退職した。21世紀への指針を生徒諸君に明るく示すことのできにくく世紀末の4年間だった。今も世界の状況は険しい。遠くの時間空間への跳躍、深い思索、美しいものへの賛美を心に置いて学び続けたいと思う。

## 祝　辞

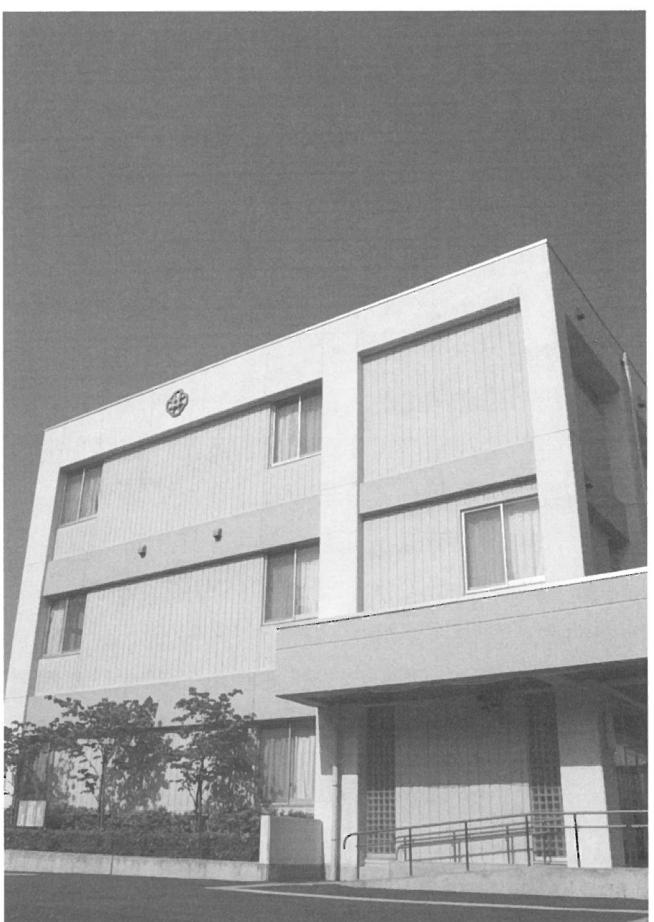
第15代校長 今野 寛雄

創立70周年を迎える井草高等学校、誠におめでとうございます。

八重桜が代名詞と言ってもよいくらいその歴史には、穏やかで、清冽な校風が流れも人間味豊かな学校と評されています。

18年前赴任した折、同窓会の一期生、二期生の方々から母校観をお聞きしました。一様に、誇りと温かい母校愛が還っていました。校歌の中味通りと直感し「穏やかで芯のある生徒を育てよう」と、当時の教育風潮から離れ「生徒の歩み応援」体制を学校方針に掲げ自学力こそ生徒の財産と皆で共有いたしました。

公立学校最後の学校でしたが、私学に移った今でもこの方針は変えず、井草の宝を活かしています。学校の前に“八重”を植え10年になります。ちなみに井草の保護者有志「八重の会」は年一回15年間続いている。祝辞らしくありませんが、井草を想う一人とし、永遠の井草に深く期待して。



## 遠い未来に想いを馳せて

第14代校長　滝 口 輝 男

創立70周年おめでとうございます。私が着任しました平成2年度は、翌年に控えた創立50周年行事、32G入選審査委員長校としての入選審査業務等例年にはない多用な準備に入る年でした。私は初めての3学区勤務であり、遠距離通勤ということもあって、いろいろな面で不安がありましたが、これらの諸準備も皆様のお力によって順調に進められました。

ただ心配だったのは、児童・生徒の流れが昭和40年代後半以降、公立校から私立校へと変わってきており、それまで入学生徒を選ぶ側にあった公立学校が生徒・保護者に選ばれる側にまわっていたことです。もはやそれまでの校風や教育方針、進路指導でその流れを変えることの厳しさを感じ、生徒・保護者の流れを公立校に呼び戻すにはどうしたらよいかということを一つの教育課題として考えていました。しかし当時、公立学校の教育システムは、昭和40年代混乱期の影響もあって、急流に映る月のごとく、水は流れても流れは変わっても、水に映る月は流れずという状況に見えました。それは景観としては美しく、考え方として合理的であっても、そうした状況を私は大変危惧しました。川の流れが変わったのなら月も流れなければいけないというきわめて非合理かもしれません、社会、時代の変容に応じ、学校制度・教育内容も変わっていかなくてはいけないと考えたのです。例えば前々任校教諭時代、自学年担任や教科担当あるいは学年PTAの方々と、時代の趨勢、生徒・保護者のニーズなどについて話し合い、授業の深化・充実、生活・進路指導の見直し等に取り組んでみました。また応募生徒の少なかった前任校では、これも教育・PTAと話し合い、その協力を得て中学校へ学校案内を配布し、学校説明会・模擬授業等を開催し、定員を上回る多くの応募者を集めることができました。今や東京都では、高学歴・高進学率時代に対応した多様な学校がありますし、小中学校でも児童・生徒・保護者が学校を選択できるシステムに変容してきています。

平成3年、教職員、PTAのお力によって創立50周年記念行事は無事に終了、その一環として「井

草・夢・玉手箱」と題したタイムカプセルの埋設、また32Gの入選審査業務も滞りなく済み、そして本校初の生徒・保護者を対象とした学校説明会も行われ定員を多く上回る応募者を集めることができました。

残念なことは、林間学校にスキーにと長年親しまれてきた「からまつ山荘」が老朽化し、改修費等のめども立たず、平成4年、ついに手放さざるを得ないという結論に達したことです。翌5年3月、その閉寮式が行われました。

平成5年1月、PTA主催で当時NHKの池上・村松両氏をお招きしてお話を聞きしました。トークショー形式でわかりやすく楽しい講演会でした。またPTAの方々を前に私は公立校教員最後の授業を行わせていただきました。同時に保護者の方々の学校教育に対する要望もお聞きしました。その中から私は、教員も保護者も生徒も地域社会の人とも、そして自校を超えて他校・塾関係者、とりわけ地域の小・中学校とも連携、ともに議論し共に学び育っていくことの必要性・重要性を痛感しました。

2021年には「遠い未来に想いを馳せて」と題した50周年時のタイムカプセル「夢・玉手箱」と開けることになっています。当時、80周年は遠い先と思っていましたが、早や70周年を迎え、開けるのも10年後になりました。開けた時、30年前の想いをどのように受け止めるでしょうか。さらに70・80・100周年の想いを後世に託していきたいものです。「遠い未来に想いを馳せて」とは未来に向かい「井草の想い」をリレーしていくことだと思います。

これからのが国は、急速に超高齢・少子化社会となり、人口の減少とその偏在性、産業構造も第4次知識産業化という未知の世界に入ります。従って人の生き方も社会や学校の有り様も大きく変容していくでしょう。こうした社会に対応し井草高がずっと存続、発展していくことを願ってやみません。

## 創立70周年に寄せて

PTA会長 永井 あけみ

都立井草高等学校創立70周年、誠におめでとうございます。保護者の一人として、皆様と共に井草高校の歴史に少しでも関わりをもてますこと、とても光栄に思います。

70年と言いますと、人間の年齢の“古希”にあたる年。数多くの卒業生の方々が、この学び舎を巣立ち、各分野でご活躍なさっていらっしゃることでしょう。

次男・長女とお世話になり、私も6年間井草高校に通わせていただいております。生徒たち、保護者の皆様の明るい笑顔に井草高校のすばらしさを実感する日々です。これも校長先生はじめ諸先生方の熱心な御指導、同窓会の皆様の御支援、保護者の皆様の御協力、地域の皆様の暖かいまなざし等あってこそのことだと思います。心より感謝申し上げます。

学校が年月を重ねていくということは、又、人がつながっていくことでもあるのではないかと思います。3年生が卒業し、又新入生を迎える、新しい関わりが生まれます。その積み重ねが70年の時を経、又今後も80年、100年と続いていくのです。在校生の皆さん、周年行事を機に、皆さんのがいろいろな方たちに囲まれて生きているということを、改めて考えていただきたいと思います。人との関係が希薄になりがちな、又、人との関わり方が難しい現代社会において、人ととの出会いを大切にしてほしいのです。その中から、今の厳しい社会状況の中にあっても、強く生き抜いていける力を育んでいただきたいと思います。

私たちPTAの活動が、子供たちと、さらに井草高校にとっても、少しでもお役にたてれば幸いです。子どもたちが夢を持ちつつ強く生きていける様、陰ながら応援していきたいと思います。

最後に、井草高校の更なる御発展と皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきたいと思います。

## 都立井草高校の創立70周年をお祝い申し上げます。

前井草会会长 遠矢良隆

都立井草高校の創立70周年をお祝い申し上げます。

さきの50周年記念式典は、過去の母校を振り返る歴史の確認であり、都立井草高校の存在感を示した大事な年でした。

あれから20年が経ち母校は70周年の節目の年を経て新たな教育方針のもと特色ある学校を目指して歩みつづけています。

確実に教育活動の成果を上げている母校に対し、井草会（同窓会）も70周年記念事業として寄付金300万円を募り、日々勉学に励む生徒への支援に役立てることを決めました。同時に単年度益30万円を井草高校活動助成金として制度化し生徒のより良い学校生活を送れる協力金として今年度から行えるようにしました。

井草会（同窓会）も卒業生は2万人を超えております。この20年間に様々な活動の仕組みを考え、世代を超えた交流の場を作っていました。今年で第7回を数えた同窓会（隔年開催）は毎回400名近い卒業生が集まり（他校に見られない参加人数）親睦の輪をひろげております。毎回第一ステージは、現役生徒の吹奏楽部による演奏は母校への関心を盛り上げ、多くの感動を呼んでおります。

70周年記念行事の今年の同窓会は生徒と卒業生の合同演奏会を行うことで、今まで以上の重みのある同窓会となっております。母校が目指す個性のある教育活動に同窓会も学校運営連絡協議会を通じて意見提案を行っております。学校評価を聞くのではなく、学校、教職員、PTA、同窓会が一緒になって生徒と先生が真剣に向き合えるようなささいな事柄でも新鮮な考えを検討し合えるために努力を重ねております。

井草高校の伝統を作りながら大いなる発展を期待しております。

## 大きいなる発展を期待して創立70周年を迎えて

井草会会长 月岡 健一 (高校17回卒)

東京都立井草高等学校の創立70周年を迎えたこと、井草会会員を代表して心からお祝い申し上げます。

さて、この20年を振り返ると、創立50周年の時は日本が高度成長の頂点、けれども、21世紀に入りバブル崩壊、リーマンショック等で長い不況を抜け出せずにいます。

この間、都立高校の教育制度改革があり、平成15年には入学選抜制度の学区制廃止で各校とも激しい生徒獲得競争に晒されることになり学校の特色化を迫られました。また、平成9年以降、数次の学校統廃合で廃校の危機の嵐が吹き荒れました。しかし、井草高校は、「自由」と「人間性の尊重」の伝統的校風と国際交流プログラム実施などの特色を出し、平成15年に重点支援校になり、統廃合にも遭わずに70周年を迎えたことは喜ばしい限りです。今まで本校を支えてこられた学校関係者、PTA、地域の方々等のご尽力に深く感謝を致します。

このような時代に、国際交流プログラムの実施において、学校と同窓生の集まりである井草会とが上手く協力することができ、それ以降、学校・PTAと井草会との間の関係は大変良好であり、学校の発展に寄与できているのではないかと思っています。

私は、学校の近くに住んでいるので、その時々の井草高校を見ており、また、自らも3年間お世話になりました。当時を振り返ると大変のんびりしており、まさに自由な校風にぴったりの学校でした。それが、現在では、制服も無くなり、より自由な校風になって、生徒は伸び伸びと高校生活を過ごしているように見えます。ただ、「自由」だから何をやっても良いではなく、まさに「人間性の尊重」があつての「自由」でしょう。「周囲に迷惑をかけない」、これはまさに、他人を尊ぶこと即ち「人間性の尊重」に他なりません。地域の人たちからも「井草高校の生徒は素晴らしい人柄がある」と評判をとる位になって欲しいと切に願っています。

井草会は、平成23年3月に卒業した新会員を含めて、会員数約2万名を超える組織になり、先輩諸兄姉は国内ばかりでなく世界各地でも目覚ましい活躍をしています。これらの人々の支援を受けて、井草会は今後一層、井草高校の発展に協力していく所存です。

最後になりましたが、我々の母校の益々の発展と、諸先生方、PTA関係者、在校生の皆さんのご健康とご多幸をお祈り申し上げてご挨拶と致します。



## 祝 70 周 年

いぐさ会会長 井 口 茂

この度、井草高校が創立70周年を迎えられましたこと、誠にお目出度いこととお祝い申し上げます。

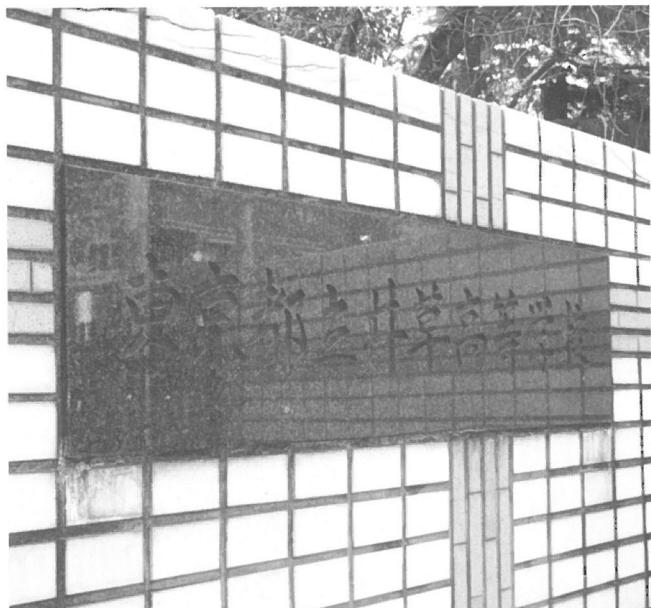
定時制は、勤労生徒の学習支援のために昭和23年4月に開校され、その後、勤労生徒が減少する中で同59年3月閉校することとなりました。卒業生の数は、1098名でした。私が学んだ当時を思い出しますと多くの生徒は、昼間会社で先輩の人に仕事を教えてもらしながら仕事をし、午後4時に仕事を終え、学校に通っていました。大人の人と一緒に働き、夜に通学するのは、体に疲れが残り、授業中に眠気に襲われることもしばしばでした。でも、学校は、心の支え、オーバーな表現をすれば「ユートピア」でした。どれだけ、心安らぐところだったかしれません。でも、時代は変わり、勤労生徒の減少期になり、定時制の統廃合がおこなわれるようになり井草高校定時制も閉課程となりました。

井草高校定時制同窓会「いぐさ会」としては、閉課程が決まってから、定時制の歴史をどのように残していくか、役員で話し合いました。当時、学校側では生徒会誌などをまとめた「はなびら影深く」井草高校定時制36年間の思い出」と名簿の作成をしていただきましたので「いぐさ会」では、永遠に残るものとして記念碑を造ることになりました。そこで、7期会長の加藤寛君が会員に協賛金を呼びかけました。2年間による呼びかけで記念碑を建てるようになりました。そして、会長を経験豊かな五期の篠又蔵さんにお願いし、具体的な取り組みにかかりました。まず、どのような記念碑にするか、すでに定時制が閉校して記念碑を建立していた武藏丘高校や千歳高校を見学し、石は篠さんの知り合いの石屋さんに頼み、根布川石を見つけていただきました。また、碑文は定時制が無くなってしまった今、全日制の生徒さんに親しんでもらえるような碑文にしなければとの思いを込めて「あゝ井草我らが青春の灯ここに燃ゆ」とし、除幕式も行いました。

現在、この記念碑は校門のところで、全日制の生徒さんに温かく見守られている、とのことをお聞きするとき、この記念碑を建てて良かった、と思うと

共に学校・生徒の皆さんに感謝申し上げる次第です。

定時制は無くなりましたが記念碑がいつまでもあるように、定時制同窓会は永遠に続くとのことで、「いぐさ会」は閉校後、今日まで絶えることなく毎年開催しております。井草高校の更なる発展を祈念申し上げます。



## 学校の沿革

- 昭和16. 1. 27 東京府立第十八高等女学校設立認可。修業年限5カ年とし生徒定員は1,250人とする。
- 昭和16. 2. 3 広瀬政次、校長に補せられ、東京府立高等家政学校内に開設。
- 昭和16. 4. 5 中野区鷺宮5丁目383番地の仮校舎において開校、第1回入学式を行う。
- 昭和17. 1. 31 校名を東京府立井草高等女学校と改称。
- 昭和18. 2. 2 練馬区上石神井1丁目40番地の本校舎に移転（敷地23,068m<sup>2</sup>）。
- 昭和18. 7. 1 都政実施により、校名を東京都立井草高等女学校と改称。
- 昭和20. 3. 28 第1回卒業式を行う。
- 昭和21. 3. 30 杉山文雄、校長に補せられる。
- 昭和22. 4. 1 学制改革により第2学年、第3学年は新制中学となり、本校併設中学校と称する。
- 昭和23. 3. 25 校舎増築平家建て、782m<sup>2</sup>。
- 昭和23. 3. 31 東京都立井草新制高等学校設置（全日制1学年5学級、定時制1学年1学級）。
- 昭和24. 3. 24 高等学校第1回、高等女学校第5回、同併設中学校第2回卒業式を行う。  
この年高等女学校・併設中学校はなくなる。
- 昭和24. 4. 1 P T A・生徒会結成。
- 昭和25. 1. 28 校名を東京都立井草高等学校と改称。
- 昭和25. 4. 11 男女共学第1回入学式を行う（5学級男80名、女170名）。
- 昭和25. 10. 17 創立10周年記念式典挙行。
- 昭和27. 10. 1 杉山文雄、都立忍岡高等学校長に転補、都立城北高等学校長高柳一二、校長に補せられる。
- 昭和30. 3. 10 体育館兼講堂竣工、605m<sup>2</sup>。
- 昭和30. 4. 1 第1学年を6学級として男女同数となる。
- 昭和30. 10. 1 高柳一二校長退職し、都立多摩高等学校長真田幸男、校長に補せられる。
- 昭和31. 7. 25 西校舎竣工、555m<sup>2</sup>。
- 昭和34. 4. 1 第1学年を7学級とする。
- 昭和34. 4. 2 南校舎竣工714m<sup>2</sup>。（旧平家建校舎取りこわし）
- 昭和35. 7. 1 本館竣工（図書室を含む）1,653m<sup>2</sup>。
- 昭和35. 9. 1 校旗制定。
- 昭和35. 10. 27 創立20周年記念式典挙行。
- 昭和36. 4. 1 真田幸男、都立立川高等学校長に転補。都教育庁より藤井茂、校長に補せられる。
- 昭和38. 4. 1 第1学年10学級とする。（パイプ教室2室を増設）
- 昭和39. 3. 31 特別教室（物・生・化）竣工754m<sup>2</sup>、パイプ教室、西校舎曳家。
- 昭和39. 4. 1 第1学年を9学級とする。
- 昭和40. 3. 31 特別教室（地）180m<sup>2</sup>、普通教室（6）787m<sup>2</sup>竣工。
- 昭和40. 4. 1 藤井茂、都立竹台高等学校長に転補。都立昭和高等学校長前島寿一、校長に補せられる。
- 昭和41. 3. 31 普通教室（3）270m<sup>2</sup>竣工。
- 昭和41. 10. 29 創立25周年記念式典挙行。
- 昭和42. 3. 27 給食室100m<sup>2</sup>竣工。
- 昭和42. 9. 29 東京都教育委員会から敷地所属換458m<sup>2</sup>。
- 昭和43. 10. 20 校舎一部（教室）焼失。
- 昭和44. 4. 1 前島寿一校長退職し、都立小山台高等学校教頭飛岡正治、校長に補せられる。

- 昭和44. 5. 28 校庭の一部（借地）の返還および地形整理のための交換成立。
- 昭和45. 3. 31 普通教室（12）1,514m<sup>2</sup>竣工。
- 昭和46. 8. 14 プール竣工。989.7m<sup>2</sup>。
- 昭和47. 5. 25 北校舎増改築。1,114m<sup>2</sup>。
- 昭和48. 4. 1 飛岡正治、都立南多摩高等学校長に転補。都立南多摩高等学校教頭桃原良治、学校長に補せられる。
- 昭和48. 10. 23 木造体育館兼講堂解体。
- 昭和49. 10. 30 鉄筋体育館完成。
- 昭和52. 4. 1 桃原良治、都立目黒高等学校長に転補。都教育庁より新井鎮夫、学校長に補せられる。
- 昭和54. 6. 22 新井鎮夫校長退職。教頭渡辺寄喜、校長代理（6.23－6.30）を命ぜられる。
- 昭和54. 7. 1 都立久留米西高等学校教頭渡辺久男、学校長に補せられる。
- 昭和54. 7. 13 渡辺久男校長死去。教頭渡辺寄喜、校長代理（7.14－7.31）を命ぜられる。
- 昭和54. 8. 1 都立五日市高等学校教頭清水庫之祐、学校長に補せられる。
- 昭和58. 9. 1 木造校舎・体育館ステージ増改築、並びに環境整備工事着工。
- 昭和59. 3. 31 定時制課程廃止。
- 昭和59. 4. 1 清水庫之祐校長退職し、都立大泉北高等学校長葛森敏、学校長に補せられる。
- 昭和59. 12. 4 体育館ステージ増改築、並びに環境整備工事完了。
- 昭和62. 4. 1 葛森敏校長退職し、東京都立教育研究所科学部長高部正、学校長に補せられる。
- 平成2. 4. 1 高部正校長退職し、都立赤坂高等学校教頭滝口輝男、学校長に補せられる。
- 平成3. 10. 12 創立50周年記念式典挙行。
- 平成4. 4. 1 第1学年8学級とする。
- 平成5. 4. 1 滝口輝男校長退職し、都立明正高等学校長今野寛雄、学校長に補せられる。
- 平成6. 12. 6 学校用地として943.88m<sup>2</sup>取得。
- 平成8. 4. 1 第1学年を7学級とする。
- 平成8. 4. 1 今野寛雄校長退職し、都立高島高等学校教頭楠原絢子、校長に補せられる。
- 平成11. 3. 31 サブグラウンド整備工事完了。
- 平成12. 4. 1 楠原絢子校長退職し、都立国分寺高等学校長梅村和伸、学校長に補せられる。
- 平成15. 4. 1 平成15年度都立高校重点支援校に指定される。
- 平成16. 4. 1 梅村和伸校長退職し、都立八王子高陵高等学校長山下貢、学校長に補せられる。
- 平成18. 4. 1 第1学年を6学級とする。
- 平成20. 2. 12 北校舎耐震補強および管理棟校舎工事完了
- 平成20. 3. 25 アメリカワシントン州ケントリッジ高校と姉妹校の提携をする。
- 平成20. 4. 1 山下貢校長退職し、都立小金井北高等学校副校長赤羽克己、学校長に補せられる。
- 平成20. 4. 1 全学年を6学級とする。
- 平成21. 12. 15 弓道場完成。
- 平成22. 4. 1 第1学年を7学級とする。
- 平成23. 4. 1 赤羽克己、都立福生高等学校長に転補、都立多摩工業高等学校長浅井嘉平、学校長に補せられる。
- 平成23. 4. 1 第2学年を7学級とする。

# 井草高校の現在

## 1. 進路部より

進路指導主任 黒澤正信

昼休み、進路指導室に、生徒がいないことはない。進路について調べものがある生徒、それに付き合つてきている生徒、勉強の場所にしている生徒、様々である。特に10月頃、来年2年生あるいは3年生になってからの選択科目をどうしたらよいか?悩んでいる生徒が所狭しとごったがえしている。どのような進路が一番よいのか?答えを見つけるために。4月~6月頃までは、自分の進路に対して不安を感じている3年生が進路室を独占する。

進路準備室の教員も質問に答えることに忙しい。生徒は進路部の先生は何でも知っていると思っているらしく、○○大学と△△大学の経済学部はどうがいいんですか?と聞いてくるのであるが、もちろん比較のしようがないときもある。「まず、自分で調べること。資料を使うことも大切だけれど、学校に行ってみること。ランクが同じでも学校は違う」

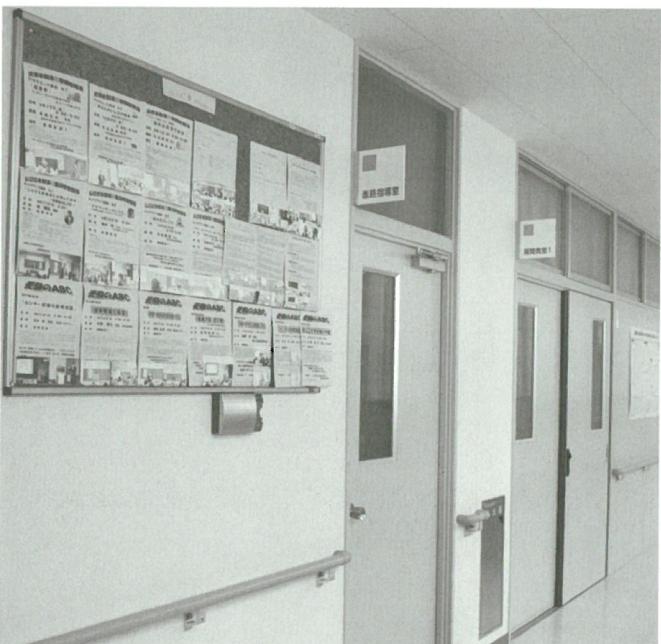
進路指導部では、このような生徒のために年間行事として仕事を知るためのキャリアアップ講座、大学を知るためのアカデミック講座、等の講座を年間で数回ずつ行っている。また、AO、推薦、センター、一般入試等の受験について、理解を深めるために、受験のABCと題しての説明会も行っている。大学だけではなく、公務員や看護系を目指している生徒に対しての説明会も行っている。これらを通じて、生徒達は自分を最大限に生かしていくには、どのような道を選べばよいかを模索していくことになる。そのためには生徒各個人個人が学力向上のために日々の努力をして行くことが大切であり、この数年間にわたってみると、全体的に生徒達の力が伸びている傾向が見られる。これは進路指導部というよりも、むしろ学校全体での進路に関する取組が、よい効果を生んでいると思われる。

ここ数年、生徒達が第1希望、第2希望の大学に合格するようになってきている。進路部としてこれが続くよう努力して行きたい。

【ここ10年の進路実績】

卒業年度	13年	14年	15年	16年	17年
4年制大学	144	139	132	136	160
【4大現役入学率】	51%	51%	50%	49%	58%
短期大学	12	24	18	13	16
専門学校	42	38	32	37	27
就職・公務員	6	2	1	2	6
進路未定・浪人	80	71	82	89	67
計	284	274	265	277	277

卒業年度	18年	19年	20年	21年	22年
4年制大学	161	172	155	152	167
【4大現役入学率】	58%	63%	66%	64%	70%
短期大学	15	14	2	11	9
専門学校	41	39	27	17	15
就職・公務員	3	3	0	1	1
進路未定・浪人	63	46	51	57	47
計	278	274	235	238	239



## 2. 教務部より

前教務主任 鶴澤 裕

平成17年6月、教務部で次年度の入学者選抜方法の検討を始めた。その中で特別選考について取り上げ、導入を強く勧めた。特別選考とは第一次募集で実施できるもので、9割は通常の選考方法で、1割を別の計算方法で選抜を実施する方法である。特別選考を導入すると大きな倍率の変化は少なく、受検生の層を学校にあった層に変え、入学後の学力向上に繋がるものである。

そこで、どのような特別選考を行うか検討した結果、1割について英語を3倍にして行うこととした。その理由は「国際理解教育を実施している」、「英語

は受験の際、理系・文系の共通科目である」などの点から提案した。校内では「英語科のカリキュラム変更を行ってから実施しては」との声もあったが当時の山下校長と善本副校長らの決断によって実施となった。平成18年4月入学生から実施しているが「英語が好きである」、「国際理解教育にとても興味がある」といった生徒が多くなり、英語の授業の活性化に繋がっていった。

その後、生徒の変化として挙げられることは、英語検定2級の合格者が1年生にも多く生まれ、後に英語検定1級の合格者も生まれた。また、特別選考導入2期生にあっては卒業後の進路先にM A R C Hへの合格者を多く出すことができた。

その後、井草高校の人気は上昇し都立高校中堅上位校として不動の地位を得ている。



### 3. 生徒指導部より

生活指導部主任 野 村 健 一

井草高校に赴任して早12年が過ぎ13年目に入ってしまった。この10年を振り返ると大きく様変わりした感は否めない。井草高校に来てカルチャーショックを受けたのは、大きく二つある。一つは、やはりレベルの高い学校へ来てしまった。と感じてしまった。放課後の職員室・・・。生徒が溢れている。何でこんなに生徒が居るのだろう?と思ったその先には、当たり前だが先生が居る。生徒は、何となく列を作っていて教科書を見ていたりノートを見ていたりと自分の番が来るのを待つ。本日の授業で分からなかったところを質問に来ていたのである。井草高校はテスト前ではなくゴクゴク普通の日であった。とんでもない学校へ来てしまった。心してかからないと大変なことになる。と真剣に思ったのを今でも覚えている。今は、学習形態も変わりそれぞれ自分にあった学習方法で学習している。しかしながら、最近はほとんどこのような風景はテスト前しかお目にかかるない。昔が良かったと言うことではないがあの頃の生徒と先生には、今ではピンとこない何か

があったのではないかと推測する。

そしてもう一つは、「駐輪禁止」の前にズラーと自転車が置かれていたことを覚えている。それなりのレベルは持っているものの“だらしない生徒が多い”のだろうと勘ぐったことも覚えている。確かに当時もピンク・紫・金などの頭髪の生徒が居た。しかし教員は誰一人として注意はしない。勉強もそこそこにやっている。しかも行事(内容にもよるが)になるとキチンとリーダーシップをとって仕切っている。井草で不思議な感覚を得た瞬間でもあった。それが、井草なのかもしれない。今現在、井草高校で「制服」を作って欲しいとの声は全く聞かない。実は10年あまり生徒指導に携わっているがこの話は聞いたことがない。いつまでも井草らしく、いわゆる三学区の普通高校であり続けてほしいと願っている。もちろん変えなければならないことは思い切って変え、絶対的に残さなければならぬものは是非残して欲しいと昨今の都立高校のあり方を見ているとそう思わざるを得ない。

創立70年の瞬間に立ち会えたことは光栄に思う。これから井草高校を創って行く主体の生徒・教職員、そして卒業生・同窓会の方々。いつまでも高校らしい井草高校をよろしくお願いします。それが未永く続くことを念願して記念誌に寄稿させて頂く。



## ～井草祭～

生徒指導部 渡邊 宏二

井草祭の顧問に初めて就いたのは一昨年度のことである。文化祭顧問の経験は大昔に一度あるだけだから、顧問引き受けに際して、かなり不安が先に立った。

また、生徒のエネルギーと関わるには、可能な限り、より若い世代の教員が相応しい、という思いがあったのも事実である。

最近の井草祭の特長を挙げるとすれば、まず「より文化的な、より創造的な」企画へと指導していること。

クラスからの「企画」内容を「遊び的」から「創造的・文化的」な企画内容へと切り換えてもらった。あまりにも「お化け・ゲーム・縁日的な企画」が増えすぎていたことへの反省だった。

生徒指導部会で『総括』を踏まえて「創造的・文化的企画」への方向性が確認された。また実行できた背景には、第1学年会の協力があつてのことだった。昨年度から「コマ劇部門」へのより積極的な参加がみられ質の高まりもあり「コマ劇」は大好評となった。立ち見が出たり時には入りきれないという状況も生まれた。持続したい。

特長の2つめは、『看板』だろうか！

各参加団体が、ベニヤ板1枚に思い思いのデザインで企画内容を宣伝するのだが、特徴的な看板が正門脇のフェンスに並ぶ。圧巻だ。

最後に「テーマ」に触れておこう。

新しい常任委員会執行部の仕事は、次年度のテーマを決めるところから始まる。

〔Love is Freedom〕とか、〔Gekimori～井草進化論～〕だったりする。企画と直接的に関係することはないが、文化的な行事に「精神的な背景」は欠かせない。

顧問としては、井草高校での生活が単に学業に偏らず、クラス（や有志団体）で一致協力して作品を創り出す経験は何事にも代え難いと確信している。



## ～体育祭～

生徒指導部 佐々木 寿子

6月上旬に行われていたものを2週間早めて中間考查前に行われるようになって3年目、5月13日に行われた体育祭は、今年もまたとてもさわやかで、いい体育祭であった。伝統である「応援団」も健在である。

体育祭は今も企画から運営まですべて生徒の手で行われる。体育祭実行委員の中から立候補で決まった「執行部」（総勢31名）が中心となり、翌年の体育祭に向けて動き始めるのが1月末。スローガン決めからはじまり、種目、プログラム順、ルール、競技時間など決めるることは数多い。今年「1年7クラス、2年7クラス、3年6クラス」という変則的なクラス数の中、色は何色にするか？、得点配分は？など悩める材料も多かった。演技図（＝競技内容の詳細、メンバー表などすべての情報が揃ったプログラム）を何度も書き直し、できあがったそれは苦労の証である。

応援団も同じく2月頃から活動を始める。入学した1年生をすぐに引き入れ、昼に放課後に練習に励んでいた。応援団の頑張りはいつもひたむきで、脱帽する。今年の色は、青・紫・黄・緑・桃・橙の6色。3クラスの団と4クラス（G組が入って）の団があるが、総勢390名。全校の約5割が体育祭に花を添えてくれることになる。

今年、予行が雨、そして体育祭前日も雨。延期にするか否かギリギリまで判断を迫られた。執行部、部活動などの有志に声をかけると、当日の6時7時に大勢が集合してくれた。グランド整備（水の吸い取りなど）の為に、である。なんとも素晴らしい生徒たちである。お陰で時間通りに開始することが出来、体育祭は晴天の中…とは行かなかつたが、晴れやかな顔で精一杯楽しむ生徒の姿がそこにはあった。

閉会式では、執行部や応援団長を始め多くの生徒が涙するほど、非常に熱い行事である。今年のスローガンは「この一瞬に激動を～輪っしょい！～」。“一人一人がその一瞬に激動し、それがみんなの激動になって最後は皆でひとつの輪になる”という願いを

込めたスローガンである。書道部に書いてもらった垂れ幕を開会式で披露するのが恒例になりつつあるが、執行部の願い通り、最後の校歌斎唱で肩を組んで作った6色の輪は、私が今まで見た中で一番綺麗な輪であった。「体育祭楽しかった！」この言葉を聞くのが担当として心から嬉しい。

来年は（おそらく）全学年7クラスになる。団色決めから行わなければならない。今後も生徒自身が運営し、一人一人が感動できる井草の体育祭を作り上げていってほしいと願う。

《第55回体育祭（平成23年度）競技紹介》  
プログラム

- ①80m予選  
100mが取れないので80m。
- ②二人三脚  
男女ペアで行われる。
- ③いかだ流し  
2年生学年種目。いかだ（馬跳びの格好）の上を船頭が走る
- ④障害物競争  
麻袋・三輪車・缶ぽっくり・ぐるぐるバット・借り物競走
- ⑤3年全員リレー  
アンカーは200m
- ⑥棒引き  
男子も女子も激しく棒を奪い合う。
- ⑦1年全員リレー  
アンカーは200m
- ⑧部活動対抗リレー
- エキシビション—応援団演技  
演技時間は5分。素晴らしい演技を披露。
- ⑨80m走決勝  
井草新記録が今年も
- ⑩2年全員リレー  
アンカーは200m
- ⑪いす取りゲーム  
男女それぞれ3回戦ずつ。優勝者には得点大。
- ⑫大ムカデ競争  
1年生の学年種目。10人1匹のむかででりー形式。
- ⑬騎馬戦  
3年生の学年種目。女子も戦います。
- ⑭I G U S Aリレー  
女子100m、男子200m、選抜メンバーでのリレー。

## ～修学旅行～

### 第63期生の修学旅行について

第3学年 片桐秀一

入学式の2ヶ月ほど前、第63期生を担当することになる担任団の初めてのミーティングがあり、修学旅行について、場所は沖縄方面、期間は3泊4日ということを全員一致で確認しました。沖縄に決めた理由は2つあります。①沖縄の文化や自然に親しみ、情操を豊かにするとともに、日本の文化や自然の多様性を学ぶ。②戦跡見学や戦争体験講話を通して戦争的一面に触れ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを実感するとともに、在日米軍基地問題を通して沖縄の置かれている状況について考察するということです。3泊4日については、解決しなければならない問題がありました。東京都が定めている修学旅行費用の上限は79,800円になります。過去4年間、修学旅行は11月に行われましたが、航空運賃が高く（羽田→那覇往復48,800円）、沖縄3泊4日は事実上不可能でした。そのため、59期生は九州3泊4日、60～62期生は沖縄2泊3日で実施していました。沖縄3泊4日を実現するためには航空運賃が割安になる12月～3月に限定せざるを得ず、糸余曲折を経て、2学年だけ先に期末考查を行うということを条件に、12月に実施することに決まりました。

実際の行程は以下のようになります。平成22年12月4日、羽田空港→那覇空港→ひめゆりの塔・平和祈念資料館（平和講話を拝聴）→ガマ（ガイドの案内）→那覇市内の宿舎。12月5日、宿舎→タクシー（班別自主研修）→恩納村の宿舎。12月6日、宿舎→海洋博記念公園→体験学習→恩納村の宿舎（夕食後、地元の青年団によるエイサーライブ）。12月7日、宿舎→首里城公園→国際通り（班別自主研修）→那覇空港→羽田空港。

事後研修として修学旅行についての作文を提出させました。その中から一部を引用してみます。

「ガマで聞いたお話の中の“私たちの命はこの世界の宝”という言葉に、私ははっとしました。たとえ自分を傷つけたって自分の勝手という考えは間違いで、ここにある命は無条件で大切なだから、守っ

ていかなければいけない、ということ。当たり前のように実は全くわかつていませんでした。」（S. K. 女子）

「沖縄の良さや魅力を肌で感じました。タクシーの運転手さんや体験学習の講師の方などの人の優しさに感動しました。沖縄には観光スポットが沢山あるけれど、“人情”も魅力の一つではないかと思いました。」（M. H. 女子）

「楽しい思い出もたくさん残った。シーカヤックをした海は、ハンパなく透明で水色でめちゃめちゃ綺麗だった。本気で沖縄に住みたいと思った。そんな美しい海もあったが、やはり一番の思い出は友達と過ごした4日間の生活である。…また、何十年後も友達と修学旅行の話をして、たくさん笑いたいと思った。」（T. K. 男子）

最後に、63期生全員（242名）が参加し、無事に全行程を終了することができたこと、体験学習当日の那覇の最高気温24.3℃が象徴するように天候に恵まれたこと、体験学習当日の朝、土砂降りの雨にもかかわらず、快晴になると信じて早朝5時から準備をしてくださった現地スタッフをはじめとする沢山の人々の“人情”に支えられたことに感謝して、修学旅行の報告と致します。



## 4. 特色ある教育活動

### ① 「IGUSA 夢 PROJECT」

進路 武 藤 亮

平成19年、新しいタイプの進路指導として「IGUSA夢PROJECT」が始まりました。以前から「一人一人にきめ細やかな進路指導」で定評のあった井草高校の進路指導ですが、井草生の希望進路実現をより確かなものとするためにこのプロジェクトを立ち上げました。あれから4年が過ぎ、今や井草高校の看板プログラムにまで成長しました。

このプロジェクトは進路指導部と学年が協力して、各種ガイダンスを組織的、計画的に行っていきます。様々な夢を持って入学してくる生徒たちがその夢をふくらませ、さらに新しい夢を見つけてその夢に近づけるように、夢から夢への橋渡しをしています。「卒業して10年、28歳の自分」をイメージできる進路指導を目指しています。

井草高校に入学した生徒は学年進行に応じ、その時々に合った進路指導により、段階的に「進学」や「職業」について学ぶことができます。早くから職業意識を持つことで学習目標を立てやすく、高校の先のその先を見据えた学びができます。大学をゴールにするのではなく新たなスタートにする、そんな進路指導が目標です。

#### 「IGUSA夢PROJECT」の紹介

##### I キャリアガイダンス(外部講師による講演会等)

- ①キャリアアップ講座(社会人による職業講座)
- ②学年別ガイダンス(学年進行に応じた各種ガイダンス)
- ③分野別ガイダンス(推薦入試、公務員、就職、看護・医療系などの分野)

##### II プレカレッジプログラム(大学の学びを知り、入学後のミスマッチを防ぐ)

- ①アカデミック講座(大学教授による出張講義)
- ②大学の講義受講(成蹊大学との高大連携プログラム・平成17年度より)

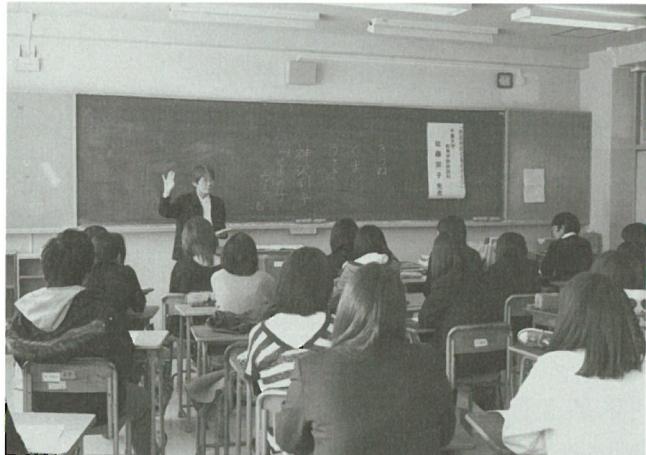
##### III 進路サポート(様々な方向から進路実現をバッ

クアップする)

- ①受験のABC(センター試験、推薦入試などピントで受験のノウハウを学ぶ)
- ②実力養成プログラム(各種模試により、入学時の実力をさらに高めるためのアイテム)
- ③ブラッシュアッププログラム(進路オリエンテーションなど)
- ④進路ハンドブック「BRIDGE」の発行
- ⑤保護者のための進路講座(年2回実施の「進路寺子屋」)



キャリアアップ講座



アカデミック講座



進路寺子屋

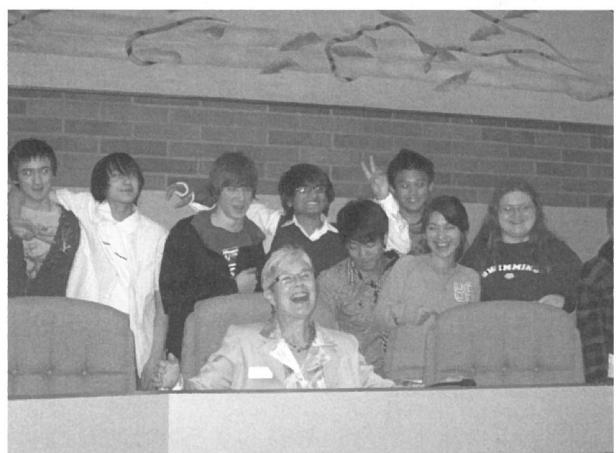
## ②国際理解教育プロジェクト

前教務主任 鵜澤 裕

平成14年、当時の梅村校長、佐藤教頭、北内事務長らは、井草高校にどのような特色をもたせ、学校改革を始動するべきかについて調査検討を進めていた。近隣の中学校校長らの多くの意見や助言のなかに「国際交流」のことばを発現したことから井草高校の歴史の1ページが開かれることとなった。

最初の受け入れは平成15年6月15日（日）～6月29日（日）に教師2名、生徒19名（男子10名、女子9名）、受入校がワシントン州（ケントウッド高校・ケントリッジ高校・ケントメリディアン高校・ケントレイク高校・ノースウッド高校・イーナムクロウ高校・メルサー高校）、コロラド州（ソートン高校・ゴールデン高校）で実施された。初年度の取り組みということもあり、受け入れホームステイの募集等、課題も数多く見受けられる中、事務局（事務長、池田主幹、清水教諭）を中心とした教職員の英知の結集により成功に導かれていった。記念すべき第1回目の派遣は、平成16年3月26日（金）～4月5日（月）教師2名、生徒20名（男子7名、女子13名）で、訪問校がワシントン州のケントリッジ高校をはじめとする5校であった。その後、ケントリッジ高校一校に絞り平成20年3月、姉妹校提携を締結するまでに至った。特に派遣にあたっては長期休業中の弾力的運用を用い、受け入れには様々な行事を取り入れ国際交流の井草高校として定評が高まっていった。その中でも生徒の変化は目を見張るものがあり、臆することなく会話に参加することはもとより、英語検定1級合格、海外の大学への進学へと繋がっていました。特記すべきは、体育館で行われた全校での送別会の出来事である。そこでは事前指導無しに全て自主的に生徒が英語による司会を行つたことである。

その後、新たな課題として引率者の確保・危機管理・希望者増などがあがり、様々な思いを残したままアメリカへの派遣は中断した。そして新たな歴史を作るべく平成23年8月にオーストラリアへの派遣が開始される予定である。



### ③学力向上プロジェクト

主幹教諭 中 溝 比呂志

最も長い休みである夏休みをどのような「夏」にするかは人それぞれである。「部活の夏」、「リフレッシュの夏」。しかし、受験生である生徒にとって、「勉強の夏」とするのが最も有意義な過ごし方である。

井草高校では「インテンシブ・セミナー」（勉強合宿）を実施している。21年度は7月の下旬に八王子の大学セミナーハウスで3泊4日、22年度からは8月の上旬に校内で、4日間、2年生を対象に実施している。

目的の一つ目は、国公立、及び、難関私大に合格するために必要な学力の基礎を、集中講義等により身につけること。二つ目は、自ら計画を立て、長時間、集中して学習することにより、学力の向上は勿論、自分の進路の実現に向けた学習習慣を身につけること。三つ目は、仲間と互いに教え合うことにより、切磋琢磨する力と、相手を尊重し、認め合う心を養うこと。

1年目は参加者が10名と少人数だったが、「勉強する習慣が付いた」、「自分の苦手な所が分かった」、「周りの人を見て、自分もやろうという気になった」などの感想があった。2年目には参加者も46名となり、国語、数学、英語の他に、物理の講座が加わり、より充実した内容となってきている。感想には、「勉強に対する意識が高まった」、「いつもの授業より少人数だったので質問しやすかった」、「センター試験がどういうものかよく分かった」などの他に、「春休みや冬休みにも実施してほしい」や、「来年も実施してほしい」というものもあり、参加した生徒たちにとって充実した講座となっていることが分かる。

夏を制するものが受験を制する、そういう考え方がある。インテンシブ・セミナーをきっかけに広まり、やがて、参加した生徒だけではなく、生徒全体のものとなることを期待している。そして、何よりも生徒一人一人が夢を実現するための一助となればと考えている。

### ④街と人と地域とともに—井草の奉仕

主幹教諭 杉 野 文 栄

平成19年度よりすべての都立高校で「奉仕」という科目が必修化されました。どの都立高校でも、この新しい科目的実施に頭を悩ませていましたが、本校では練馬区、杉並区を中心に多くの方々にご支援をいただき、他校では例を見ないような様々な活動を行うことができました。

本校では、二つのテーマを「奉仕」の目標に掲げています。一つはお祭りや伝統行事などに参加することによって、地域の方々との交流や絆を深めること、もう一つは障害のある方やお年寄りの皆さんと触れ合い、思いやりの心を育てる事、の2つです。地域のお祭りでは、練馬区で最大の「照姫まつり」に準備段階から参加して、毎年100名もの生徒がお祭りの運営や来訪者のご案内などをしていますが、中には行列に加わって衣装を着てほら貝を吹き、街頭から拍手をいただいた生徒もいました。また、本校近くの下石神井商店街の「しもしやく祭り」には、準備、当日、後片付けと大変多くの生徒が参加し、模擬店の手伝いや警備だけではなく、バンド演奏やダンスまで行っています。

障害のある方との交流では、知的障害のある方が利用している「すだちの里」の皆さんをお招きしてクリスマスコンサートを行ったり、「先天性四肢障害児父母の会」のスポーツ大会をお手伝いしたりするなどの活動を行いました。障害があっても、そうでなくても、ともに音楽を楽しんだり、体を動かしたりする中で、感謝される喜びを感じ、思いやりの心を育てる大変意義深い活動を行うことができました。

東京都の新しい科目という形でスタートした「奉仕」でしたが、本校では生徒一人一人が生きていく力を育む上で重要な役割を果たしています。「ありがとう」の言葉がこだまし、笑顔が溢れる中での本校の奉仕体験活動は、本校が地域の方々に愛され、生徒が社会の一員としての誇りを持つ、かけがえのないものとなっています。

## 平成22年度学校経営報告

東京都立井草高等学校長 赤 羽 克 己

## 《無限の可能性！GUSA感動を原動力に！生徒の人間力を伸ばす進学校》

## 1 教育活動への取り組みと評価

## 【学習指導】《学力向上》

- 1) 学校運営連絡協議会の学校評価、生徒による授業評価、スタディサポート等により生徒の生活や学習に対する姿勢等現状を把握した。その結果を踏まえ、各教科・各学年で協議を深め、全教職員による校内研修を実施した。生徒の授業に対する取り組み状況や家庭学習時間の確保への方策を共有化するなど教科間・担任間で連携を深めることができた。また、授業改善・授業力向上のため、進学実績の分析を基にした校内研修等を実施した。
- 2) 土曜講習と長期休業期間中の講習  
第2学年では、夏季休業中にインテンシブ・セミナーを実施し、45名の生徒が参加をした。学習意欲を喚起したり、上級学校への進学に向けての基礎力を養う足がかりとすることことができた。進学対策の充実を図るため自学自習室の活用・推進を行い学力向上の定着を図った。また、英語検定の受験を促した。
- 3) 2年と3年の英語（ライティング）及び2年の数学（数学Ⅱ、数学B）において習熟度別授業を実施することによって、きめ細かな学習指導を展開し、生徒の学力向上を図った。
- 4) 授業公開週間を活用した教員間の授業見学（年2回）、授業力向上を目指した校内研修（年3回）、研究授業（年8回）を実施して授業力の向上を図った。

## 〔学習指導の数値変化〕

- ① 生徒による授業評価項目：「わかる授業」に対する肯定評価の割合  
19年度 75% 20年度 75% 21年度 75% 22年度 73%
- ② 家庭学習時間：「1日2時間以上学習する生徒」の割合  
20年度 32% 21年度 37% 22年度 36%
- ③ 講習・補習の計画的な実施  
19年度 土曜講習 13講座、休業中の講習 31講座  
20年度 土曜講習 17講座、休業中の講習 33講座  
21年度 土曜講習 17講座、休業中の講習 35講座  
22年度 土曜講習 14講座、休業中の講習 41講座
- ④ 授業公開週間及び研究授業の実施  
19年度 授業公開週間2回、研究授業5回  
20年度 授業公開週間2回、研究授業6回  
21年度 授業公開週間2回、研究授業8回  
22年度 授業公開週間2回、研究授業8回
- ⑤ 英語検定合格者  
20年度 2級合格者 8名 準2級合格者24名  
21年度 1級合格者 1名 準1級合格者2名 2級合格者20名 準2級合格者61名  
22年度 2級合格者 6名 準2級合格者11名

## 【進路指導】《意識啓発と進路実現》

- 1) 進路ガイダンス「受験のABC」を実施して「IGUSA夢PROJECT」を充実させた。また、進路指導部と学年、他の校務分掌が協力し、生徒の希望進路実現のための各種ガイダンスを組織的・計画的に行い、生徒の参加者数を大幅に増やした。「IGUSA夢PROJECT」が、生徒や保護者のみならず中学生にも本校の教育活動の特色の一つとして定着した。また、アカデミック講座を2回(3回目は震災のため中止)、キャリアアップ講座を3回実施した。
- 2) 全学年対象の「アカデミック講座」、「キャリアアップ講座」、学年別ガイダンスとして1学年進路ガイダンス(「社会の求める人材」、「進路準備講座」、「キャリアアップ集中講座・しごと」)、2学年進路ガイダンス(「ゆるぎない進路選択のために」、「夢をかなえるために、今やるべきこと」、「分野別ガイダンス」)、3学年進路ガイダンス(「進路オリエンテーション」等)をきめ細かく実施した。本校生徒の大半は大学進学を希望しており、受験生として早期の目標設定をすることで、進学や職業についての意識を高めることができた。高校卒業後の先を見据えたキャリア教育の実施は、生徒の進路意識向上に大いに役立っている。
- 3) 進路部と各学年とが連携を深め、新しい試みを取り入れながら「IGUSA夢PROJECT」の充実を推進し、多くの成果を上げた。
  - ①アカデミック集中講座(大学教授による模擬講義)を、1・2年生を対象に16講座実施した。生徒が希望する多くの学問分野の講義が実現した。
  - ②センター試験や推薦入試等具体的な受験指導に特化した進路ガイダンス「受験のABC」を2講座実施した。受験への意識を大いに高めることができた。
  - ③11月に2年生を対象に進路ガイダンス「夢をかなえるために、今やるべきこと」を実施した。いわゆる「中だるみ」になりやすい時期に、受験生としての自覚を持たせることができた。
  - ④3月の1・2年生を対象に卒業生による「合格体験談」を取り入れた進路ガイダンスについては、平成23年東日本大震災のため、実施できなかった。卒業生等準備をしていてくれたこともあり、来年度6月4日の進路ガイダンスに改めて実施する。
- 4) 受験制度や大学の情報を周知するため進路相談室の整備を行った。また、「進路ニュース」を毎月発行しタイムリーな情報提供を行った。保護者に対しては各学年の保護者会で大学受験の現状を説明し、進路情報の提供を行った。また、6月と1月には保護者向けの進路講演会「進路寺子屋」を開催し、保護者に対しても進路状況を取り巻く現状について理解を深める取り組みを行った。
- 5) 卒業生に対するアンケートや各学年生徒への進路調査を実施・分析し、生徒の状況把握を的確に行い、効果的な進路指導体制の構築に努めた。また、3学年に対して自分たちが2年の選択科目や3学年の選択科目を選択した結果、どのようなことを思ったかについてのアンケートを実施し、校内カリキュラムが生徒の進路に与える影響を調べた。

## 〔進路指導の数値変化〕

- ① 四年制大学への進学者数(率)の増加

19年度	173名	63.1%
20年度	156名	66.4%
21年度	162名	67.7%
22年度	146名	69.9%

- ② ガイダンスへの生徒の参加率の向上

19年度 キャリアアップ講座とアカデミック講座(合計23講座で783名)

20年度 キャリアアップ講座、アカデミック講座、学年別ガイダンス(合計35講座で1,650名)

21年度 キャリアアップ講座、アカデミック講座、受験のA B C、学年別ガイダンス（合計50講座で2,675名）

22年度 キャリアアップ講座、アカデミック講座、受験のA B C、学年別ガイダンス（合計44講座で3,355名）

③ 上級学校進路決定率の向上

19年度 83.2% 20年度 75.7% 21年度 77.4% 22年度 81.6%

④ 高大連携：成蹊大学

19年度 3年生1名が聴講生として参加

20年度 3年生2名が科目等履修生として参加、高校と大学双方で単位認定

21年度 3年生1名が科目等履修生として参加、高校と大学双方で単位認定

22年度 参加者なし

【生活指導】《自主・自律の育成》

1) 規範意識の向上を図るために、全校集会とホームルーム活動の中で生徒指導部から注意喚起と情報を発信し指導の強化を図った。本年の情報提供は4件であった。ここ数年では最も少ない数であった。落ち着いて学習し、学校生活を送っている様子がうかがえる。今後も生徒一人一人が自覚を深め井草生として誇りをもって行動できるように指導する。

2) 生徒指導部を中心にして朝の駐輪場指導を毎日実施して、自転車の通学マナーの指導と挨拶の励行指導を行った。また、全校集会とホームルーム活動で交通ルールを遵守するように指導した。特に、本年度は東京都道路交通規則の一部改定に伴う注意も呼びかけた。

3) 生徒の「自主・自律」の精神を育成するため、部活動の部長会と各行事委員長の連携を密にして、各行事の計画を生徒主体で行うように指導した。

4) 思いやりの気持ちを育て、自己肯定感を養うために2年生を対象にして、6月に障害者の方をお招きして講演会を行った。

5) 学校運営連絡協議会と職員会議等において、学校評価アンケートの結果について分析・検討を行い生徒指導に生かすように努めた。

「生徒の自主性・自律性を育て、充実した学校生活が送れるような生活指導が行われていると思いますか」の質問に保護者82%・生徒72%・教職員77%が肯定的評価であった。昨年と比較すると格段に高くなっている。また逆に否定的評価は保護者10%・生徒17%・教職員21%と低くなってしまっており指導の成果が現れてきている。

6) 毎日の遅刻者数を減少させるために組織的に指導を行った。特に、遅刻の増える体育祭後の6月に遅刻防止週間を設定し重点的に遅刻防止指導を行った。また、2学期も井草祭後に増える傾向があるため、遅刻防止指導を実施した。3学期は、1・2年生のみを対象に行った。特に回数の多い生徒は、生徒指導部指導及び校長指導を入れ、朝の立ち番指導も全教員で行い、生徒指導部・学年・管理職と組織的に行なった。徐々にではあるが減ってきてている。特に3学年は、近年では最も少ない数となった。

1クラス当り1日の平均遅刻者数は1学年は、1.03人（昨年度0.82人）、2学年は、1.81人（昨年度2.47人）、3学年は、3.10人（昨年度3.64人）、全体平均は、2.0人（昨年度2.3人）であった。

【保健】

1) 養護教諭との連携をとり、困難を抱える生徒の諸問題の解決に努めた。

生徒が心身の健康を自己コントロールできるよう、保健室や各学年の担任等で隨時連携して相談活動の充実を図った。

2) 生涯を通じて健康に生きる力を養う教育の一貫として、「性教育講話」「セーフティ一教室」を実施

した。

- 3) 美化委員会を通じて美化活動を推進し環境を整える努力をした。落ち葉掃き・各行事での校内美化清掃等の活動では、生徒の環境美化意識の向上を図った。校内における危険箇所を把握し、その都度迅速に対応し補修・整備を行い事故防止に心掛けた。
- 4) 予防すべき感染症に関して、特に第4期接種対象者（高校3年生）への接種勧奨を行った。また、冬に流行するインフルエンザ・感染性胃腸炎等については情報提供を行い、手洗いや咳エチケット等を呼びかけ感染拡大防止に努めた。

#### 【特別活動・その他】《活力向上》

- 1) 生徒の自主性と実践力を高めるために、創意工夫した指導を行い、各行事や部活動等の充実を図ることができた。学校評価アンケート項目「学校行事は生徒が自主的に取り組んでいると思いますか」の問い合わせに対する回答は、生徒の78%、保護者の93%が肯定的な回答であった。「部活動が活発に行われていると思いますか」の問い合わせには生徒の78%、保護者の83%が肯定的な回答であり、昨年度より更に高い評価となった。
- 2) 11月に実施した「トライ＆チャレンジふれあい月間事業（井草高校体験入部）」に運動部7部・学芸部1部が参加した。95名の中学生が参加し、本校の生徒と中学生が楽しく交流した。その後も部活動見学の問い合わせが多く来年度は更に規模を拡大して実施したい。
- 3) 教科「奉仕」は本校では第2学年の総合的な学習の時間の代替として行っている。生徒一人一人が各自の興味・関心に合わせて、18時間以上の「奉仕体験活動」を行った。本校では、一人一人が活動先を自主的に選択し地域の奉仕体験活動を行っているため、生徒の活動は意欲的であり、連携先との協力関係は大変良好であった。このような活動を通して、自己肯定感や思いやりの心を生徒に培うことができた。

##### ①祭り等の地域活動における連携先

照姫まつり実行委員会、しもしやく祭り実行委員会、石神井公園灯籠流しの夕べ実行委員会、井草どんど焼き実行委員会、八成盆踊り実行委員会、光が丘よさこい実行委員会、国際ダンスデー実行委員会

##### ②障害者施設、団体等における連携先

すだちの里、わたぼうしの会、先天性四肢障害児父母の会、杉並区スポーツ振興財団、上井草園、石神井冒険遊びの会

##### ③中学校等における連携先

各中学校での部活動

##### ④環境保護活動等における連携先

川と水辺の会

#### 4) 国際理解教育

ケントリッヂ高校の都合により7月の来日と3月の派遣は中止となった。そのため、新たな国際交流事業を8月実施で立ち上げた。

また、2年目となったブリティッシュヒルズでの語学研修イングリッシュキャンプは10月に2泊3日で生徒17人（昨年9人）が参加した。

#### 【学校経営・組織体制】《組織力向上》

- 1) 応募者数の増加を図るために、募集広報活動を組織的に行った。夏季休業中の学校見学会に1114名（昨年度1596人）、10月の学校説明会496名（昨年度741人）、11月の学校説明会には607名（昨年度775人）の参加者があった。
- 2) 5月よりホームページを大幅に刷新し、進路指導や日常の教育活動の更新を適宜行い、最新の教育情報を発信するように努めた。

- 3) 中学校主催の学校説明会や塾主催の学校説明会、都教育委員会主催の合同説明会等において、学校の特色や生徒の状況について本校の教員がきめ細かく中学生や保護者に対して説明し、広報活動に努めた。
- 4) 本校のPR活動展開のため、10月に本校教員が広報戦略重点地区を中心に中学校訪問を行った。
- 5) ICT研修、授業力向上・学力向上を図る研修、人権教育研修、特別支援教育研修、情報セキュリティ研修、服務事故防止研修等延べ15回の校内研修を行った。

## 2 次年度以降の課題と対応策

### 【学習指導】

- 1) 生徒一人一人の学力を限りなく高めるために、生徒による授業評価と学校運営連絡協議会の学校評価を分析・考察し、確かな学力を培う授業の創造と家庭学習のいっそうの定着を図る。
- 2) 授業公開週間と研究授業等を活用し教員間の授業見学をさらに推進する。また、校内研修や他教科・地域との連携を通して授業内容の改善・工夫を図り、生徒に確かな学力を培う。
- 3) 教科「奉仕」の組織的運営の推進と指導内容・指導方法のいっそうの充実を目指し、生徒一人一人に社会貢献の精神を育成する。
- 4) ICT機器を効果的に活用した授業実践をさらに広げ、魅力ある授業の創造を目指す。

### 【進路指導】

- 1) 進路指導部と各学年、保護者、外部機関等との相互連携をいっそう図り、3年間を見通した進路指導計画に基づいた指導を組織的に推進する。
- 2) 生徒が一人でも多く「IGUSA夢PROJECT」へ参加するような工夫・改善を行い「IGUSA夢PROJECT」のいっそうの充実を目指す。

### 【生活指導】

- 1) 授業に遅れないことや交通ルールを守ること、お互いに挨拶を励行すること、インターネット・携帯電話の適正利用等学校や社会でのルールやマナーを身に付けさせ社会性や規範意識を高める。
- 2) 生徒の美化委員会をいっそう活性化させ、校内美化に主体的に取り組むようにきめ細かな清掃指導等を行う。

### 【保健】

- 1) 生徒一人一人の健康と安全について、教職員の共通理解と連携を深め、心と体の健康づくりを組織的・計画的に行う。
- 2) 健康安全講話を充実させ、自らの健康管理や健康的な生活行動がとれる能力・態度を育成する。

### 【特別活動・その他】

- 1) 生徒の能力・特性を理解し、活動内容の工夫と適切な指導計画を基にして、生徒一人一人の活動意欲を高め、生徒会活動・委員会活動・部活動等のいっそうの活性化を図る。
- 2) 国内語学研修と新規の国際交流事業を組織的に推進し、8月実施を目指すとともに生徒一人一人の異文化に対する理解を深め、国際理解教育を推進する。

### 【学校経営・組織体制】

- 1) 『井草学力向上プロジェクト・IGUSA夢PROJECT・井草国際理解プロジェクト』を組織的に推進し、特色ある教育活動の充実を目指す。
- 2) 中学校訪問、学校説明会、塾対象説明会等募集・広報活動をいっそう工夫し、効果的・組織的に行う。
- 3) 土曜講習や長期休業中の講習、インテンシブ・セミナー、スプリング・セミナー等の組織的な取り組みにより、生徒の学力向上を図る。
- 4) 進学校として、新教育課程を踏まえ生徒一人一人の学力を高める方策を検討し、その具体化を推進する。

# 平成23年度都立井草高等学校経営計画

## 21世紀をたくましく生きる人材の育成

東京都立井草高等学校長 浅井嘉平

### I 学校の特色と目指す学校像

わが国は、特に経済界や産業界において国際化、グローバル化が進み、社会が激しく変化する時代にある。

本校は、このような状況を踏まえた上で普通科高校としての特色を生かしながら、文系・理系を問わず、世界にはばたく国際人としての資質や態度を身につけさせるとともに、21世紀の急激に変化する社会に対応して忍耐強く、たくましく生きる力を育くむ学校を目指さなければならない。このことから、本校は、教育目標にある自ら課題を解決し、責任ある行動、勤労を尊ぶ精神、礼儀正しく気品ある生き方、人権尊重や社会に貢献することのできる人材の育成を目指す。

- 1) 生徒一人一人の学力を向上させ、希望する進路を実現させる学校
- 2) 社会のルール・マナーを守る規範意識の育成を図る学校
- 3) 生徒会行事や部活動などの特別活動全体が活発な学校
- 4) 語学研修や国際交流事業などを通じて国際人としての資質や態度を磨く学校
- 5) 特色ある伝統や学校文化を継承し保護者、地域社会から信頼される学校

### II 中期的目標と方策

#### 1) (学習指導)

- ・新学習指導要領に基づいた新教育課程を編成する。
- ・授業を工夫・改善・研究して分かる授業を展開する。
- ・習熟度別授業や少人数授業を積極的に導入して、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。
- ・生徒一人一人に基礎、基本から応用まできめ細かい学習指導をするための補習や講習会を実施する。

#### 2) (進路指導)

- ・3年間を見通した系統的な進路指導計画のもとキャリア教育を推進する。
- ・大学・保護者・外部機関等との連携を図り、生徒一人一人の適性に応じた進路を実現する。
- ・生徒の進路希望や生徒の実態を把握してきめ細かい進路指導を行う。

#### 3) (生活指導)

- ・時間厳守や交通ルールを守るなど社会生活における基本的なルール・マナーを身に付けさせる。
- ・礼儀を正しく気品に富み、規範意識ある生き方を育てる。
- ・人権を尊重し奉仕精神を持ち、協力して社会の発展に貢献する人材を養成する。

#### 4) (特別活動・部活動)

- ・学校行事やホームルーム活動、生徒会活動を通して責任ある自主的な行動ができる人間を育てる。
- ・部活動を通して、主体性・協調性・責任感・成就感等を高め、心豊かで健康な生徒を育てる。
- ・国際交流を通して日本や外国の伝統・文化の理解、人権意識、国際人としての能力を向上させる。

#### 5) (健康づくり)

- ・セーフティ教室や健全育成に関する講演等を充実させ、自他の生命、生活を尊重する態度を育てる。

#### 6) (募集・広報活動、地域交流等)

- ・中学校訪問、学校説明会、授業公開、近隣中学校との交流等を通して広報活動を展開する。

- ・組織的な募集・広報活動を行うとともに、地域に貢献する魅力ある学校づくりを推進する。

#### 7) (その他)

- ・学校運営連絡協議会の学校評価や生徒による授業評価を積極的に活用し、学校経営の改善に生かす。
- ・管理職、経営企画室、教職員との連携を円滑にして自律経営予算の有効活用のもと組織目標の達成を図る。

### III 平成23年度教育活動の目標と方策

#### 1) 『学習指導』

生徒一人一人の学力を向上させる。

- ・教科、科目の授業計画、内容、方法の改善・工夫を図る。
- ・授業公開、授業見学、研究授業、校内外の研修会等を活用し授業力の向上を図る。
- ・学習指導に関する情報交換を活性化してきめ細かな指導を推進する。
- ・学習意欲の喚起、上級学校進学のための学力を養うため、土曜日及び長期休業中（インテンシブ・セミナー、スプリング・セミナー）の講習をさらに推進する。
- ・習熟度別授業や少人数授業を通してきめ細かな学習指導を展開する。
- ・I C T 機器や視聴覚機器を効果的に活用した授業実践を進め、魅力ある授業を展開する。
- ・生徒による授業評価や学校評価、学習の成績、外部摸試等の結果を踏まえて生徒の実態を把握する。
- ・教科「奉仕」の組織的運営の推進と指導内容・指導方法のいっそうの充実を図る。

#### 2) 『進路指導』

生徒の意識啓発と進路実現を図る。

- ・進路指導部と各学年とが連携して「I G U S A 夢PROJECT」を充実させる。
- ・「アカデミック講座」、「キャリアアップ講座」、学年別ガイダンスを組織的・計画的に行う。
- ・「進路ニュース」を毎月発行しタイムリーな情報提供を行う。
- ・外部機関等のデータを活用して、個々の生徒の状況に応じた指導を行う。

#### 3) 『生活指導』

社会のルール・マナーを守る規範意識の育成を図る。

- ・儀式、学年集会、生徒総会等において、集団としての規律や行動がとれるように指導する。
- ・校門指導、面接指導、部活動指導を通してルール・マナー、身だしなみなど社会人としての資質、規範意識を徹底して指導する。
- ・登下校の交通ルールの遵守、授業中の姿勢・態度、校内の挨拶の励行などを徹底して指導する。
- ・生徒の健康と安全、心と体の健康づくりを組織的・計画的に行う。
- ・生徒が校内美化やエコに主体的に取り組むように指導する。

#### 4) 『特別活動・部活動』

コアとなる生徒会行事や部活動を通して特別活動全体の活性化を図る。

- ・生徒の自律を促し、生徒会の充実、創意工夫した特色ある生徒会行事の創造を指導する。
- ・部活動を推進するため文化・スポーツ特別推薦の導入を検討する。
- ・ホームルーム活動を組織的・計画的に運営するなかで、生徒の主体性、協調性、責任感、成就感等を高め、心豊かな生徒を育てる。
- ・読書に親しむ姿勢・態度を育てるため、図書の選定、蔵書の点検・整理とともに図書室の充実を図る。

#### 5) 『国際理解教育』

国内語学研修と国際交流事業等を組織的に推進する。

- ・国内語学研修（ブリティッシュヒルズ）を通して語学力及び異文化理解を図る

- ・国際交流事業等（豪州、米国等）を組織的に推進し、異文化及び日本の伝統・文化に対する理解を深める。
- 6) 「保健」

- ・健康、安全に関する講演会やセーフティ教室を実施して、心身の健康や安全指導を計画的に行う。
- ・生徒指導部、保健室、学年等の連携を密にして組織的・計画的な保健指導を行う。

#### 7) 『その他の体制づくり』

教育課題の改善に迅速・組織的に取り組む。

- ・平日 7 時間授業や土曜日授業などについて再度検討し特色ある教育課程を編成する。
- ・ホームページ・学校行事・公開講座・部活動等を広報し、地域に開かれた学校づくりをいっそう推進する。
- ・経営企画室の経営企画面での機能をいっそう高め、経営企画室と教員との連携をより深めるとともに自律経営予算の有効活用をいっそう図る。

### IV 教職員の服務規律の厳正と研修・研究の充実

#### 1) 服務規律の徹底

- ・私物ＵＳＢやＰＣの持ち込み禁止などとともに個人情報の管理や既存ＰＣの効率的な運用システムを構築して情報管理を徹底する。
- ・7月、12月の服務違反防止研修会の他に服務事故防止に向けての研修会を実施する。

#### 2) 教職員の研修・研究の充実

- ・ＩＣＴ機器の活用や教科による研究授業を実施する。
- ・多様な生徒に対応するための教育相談を充実させる。
- ・生徒の安全や健康の推進を図るための研修会や外部機関との連携を進める。

### V 平成23年度学校評価項目と数値目標（昨年度）

#### 1) 『学習指導』

- ・生徒による授業評価：「分かる授業」肯定評価80% (73%)
- ・家庭学習の定着：学校評価アンケート「1日2時間以上学習する」全校平均を40%以上に (36%)
- ・補習・講習の実施：土曜講習17講座 (14講座)、休業中の補習41講座 (41講座)
- ・英語検定合格者：1級1名 (0名)、準1級1名 (0名)、2級10名 (6名)、準2級30名 (11名)

#### 2) 『進路指導』

- ・進路ガイダンスへの生徒参加を向上させる：キャリアアップ講座とアカデミック講座、進路ガイダンス合計3300名 (のべ3355名)
- ・4年制大学への現役進学率の向上：70% (69.9%)

#### 3) 『生活指導』

- ・学校評価アンケート「生徒の自主性や自律性を育て、充実した学校生活が送れるような生活指導が行われている」の肯定評価：80% (72%)
- ・遅刻者数の減少「1クラス当たり1日の平均遅刻者数」：0人 (2.0人)

#### 4) 『特別活動と国際理解教育』

- ・学校評価アンケート「行事指導で自主性が育まれていると思いますか」の肯定評価を高める。：85% (78%)
- ・部活動加入率：80% (78%)
- ・国際理解教育：ブリティッシュヒルズ参加者20名 (17名)、オーストラリア交流10名 (0名)、その他15名 (0名)

#### 5) 『その他』

- ・中学校訪問数190校 (183校)、学校説明会参加数3112名 (2695名)、授業公開参加数230名 (222名)

# 平成22年度東京都立井草高等学校学校運営連絡協議会報告

## 1 組 織

- (1) 東京都立井草高等学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成 ..... 経営企画室長、事務主任、事務主事計3名
- (3) 内部委員構成 ..... 副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任、生徒指導主任、進路指導主任、学年主任（3名））計8名
- (4) 協議委員構成 ..... 地域代表、有識者2名、公立中学校長、同窓会会长、PTA会長、前PTA会長、元PTA会長計8名

## 2 平成22年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 平成22年5月24日（月）内部委員8名、協議委員7名
    - 協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
    - 昨年度の学校経営計画、学校運営連絡協議会の報告及び課題
    - 本校の現状と課題等説明、授業評価の説明、土曜講習会の説明、意見交換
  - 第2回 平成22年10月8日（金）内部委員8名、協議委員6名
    - 学校評価アンケートの内容検討、これまでの教育活動に関する報告、
    - 協議委員からの意見、学校評価の内容検討、協議
  - 第3回 平成23年1月21日（金）内部委員7名、協議委員7名
    - 学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
    - 次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 平成22年5月24日（月）内部委員2名、協議委員1名
    - 学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
    - 今年度の学校評価の実施に向けた検討、今後の予定
  - 第2回 平成22年10月8日（金）内部委員3名、協議委員2名
    - 学校評価アンケートの観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
  - 第3回 平成23年1月21日（金）内部委員3名、協議委員2名
    - アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
  - 「学校運営」「学習活動」「生活指導」「進路指導」「特別活動」「施設関連」及び「重点支援関連」などの観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・12月全学年、生徒（764名 回収率99.6%）及び保護者（回収率54%）
  - ・12月教職員（回収率100%）
- (3) 主な評価項目
  - ①学校運営：学校運営、生徒の帰属意識、教育目標の定着度に関する評価
  - ②学習活動：授業方法や教材の工夫、分かる授業の展開、授業の満足度、興味関心に応じた学習活

## 動に関する評価

- ③生活指導：基本的生活習慣の指導、自主・自律指導、相談体制に関する評価
- ④進路指導：計画的できめ細かい指導、情報提供、進路相談に関する評価
- ⑤特別活動：学校行事の充実度、部活動・HR活動の取り組み、生徒会・委員会活動の評価、PTA活動への取り組みに対する評価
- ⑥土曜講習・国際理解教育：取り組みに対する評価
- ⑦その他：美化・保健室・図書館・外部への対応・奉仕活動の評価

## (4) 評価結果の概要

- ・学校生活全般（「学校生活の充実度」「学校行事への参加」「部活動への参加」）については三者（保護者・生徒・教職員）ともに肯定的評価が増加しており、最低でも80%以上の高率であった。各教科の授業については昨年に引き続き生徒の評価と教員の評価に隔たりが見られる。ただ昨年より隔たりは小さくなる方向に変化している。
- ・本校の特色と位置づけている国際理解教育及び土曜講習については、評価が昨年より下がる結果となった。特に国際理解教育は、昨年一年間は交流生の派遣・受入を全くできなかった。来年度早い時期に国際交流を実施することが必要である。福島県の「ブリティッシュヒルズ」におけるイングリッシュキャンプについては、施設側からも高い評価をいただき、参加生徒の感想も内容が優れたものである。土曜講習は、開講の講座の種類が少ないのであるという意見もあった。来年度検討するとともに、土曜講習と部活動の関係を再度確認することが必要である。
- ・「学校の施設設備」は、変化はなく否定的評価の割合が高い。生徒募集対策上からも改善が望まれる。
- ・前述以外で生徒の肯定的評価が50%以下の項目は、「図書館利用」「悩み相談」「美化」であった。ともに昨年よりは改善しているものの依然30%～40%台である。昨年度も分析したが図書館利用は、利用していない生徒も多々おり“分からない”どちらとも言えないで答えた人が多いと推測する。美化は、全体としては昨年よりやや低下した。悩み相談は、悩みの内容により相談先が異なることも考えられる。学習・進路関係であれば担任や教科担当へ、私的なデリケートなことは保健室などである。相談体制の構築と、相談しやすい部屋の準備、“意見箱”設置などの工夫をして実施したら良いのではないかとのご意見を頂いた。
- ・「進路指導」に関しては、“IGUSA夢PROJECT”が生徒・保護者及び中学生にも浸透し、昨年に引き続き生徒・保護者ともに70%以上の肯定的評価に繋がった。進路指導部主催の学年ごとの進路指導・キャリアガイダンス・模擬試験等情報提供やきめ細かな指導が結果に表れた。自己実現へ向け更なるサポート体制を構築することが重要である。
- ・全体としては保護者の総合評価は肯定的評価が87%の高率であった。肯定的評価が保護者は24項目中18項目増加した。生徒は20項目が昨年より増加した。教職員を含めた三者ともに増加したのは6項目であった。否定的評価が増加した項目の中でも「国際理解教育」は保護者で肯定的評価が15%低下と深刻な状況である。

## (5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

- ・「生徒による授業評価」の実施並びに授業改善の方向性を統一し、学校の方針を徹底することが必要である。また、各教科の授業計画や評価等について十分な説明をおこない実のあるものとすることが必要である。
- アンケート項目を見直す時期に来ているので、学校運営の一層の改善に結び付くものとなるよう工夫したい。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校改革の具体的な方策を明確に示す必要性が認識できた。
- ・学校運営の方針をさらに徹底し、生徒と教員の共同意識を育成することが必要であると認識できた。
- ・研究授業の実施や、授業公開の工夫等、授業改善に繋がる方策を構ずることが必要である。
- ・教師と生徒のコミュニケーションを充実させ、更にきめ細かな指導をおこなう必要性を認識できた。
- ・学校の状況を積極的に保護者及び地域に発信する必要性を認識できた。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・公開授業を保護者や地域住民が参加を望んでいるが、なかなかその機会が確保できないことが分かった。
- ・HRの指導や、進路指導について学級差がないような工夫が必要であることが分かった。
- ・授業の様子を積極的に公開し、学校評価の状況について理解を得られるようにすることの必要性が分かった。特に物理的に見学しやすい状況(教室のドアの開放など)を工夫することも検討する。
- ・個々の担当が親身になって対応するとともに、全ての事象を学校全体の課題として受け止め、教職員集団が一丸となって取り組んで行かなければならない。「井草高校の特色」とは何かをもう一度確認し、それを生かす教育活動を実践することが入選倍率をはじめ、さまざまなことがらによる影響を与えることを認識した。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

##### (1) 学校運営

- ・学校の教育方針について理解を得るために機会を確保し、本校の特色を定着させることが必要である。

##### (2) 学習指導

- ・授業の改善に努め、生徒による授業評価や公開授業等の活用を行う。また、校内研修会の実施や研究授業などについても有効に活用する。

##### (3) 特別活動

- ・特別活動の内容や実施時期について精選をはかり、充実した活動とする。

##### (4) 生活指導

- ・基本的な生活習慣を身につける指導を充実させ、規範意識を高める指導を行う。保護者や地域の方々との連携をさらに強化する。

##### (5) 進路指導

- ・進路指導の充実を図るとともに、個人面談の充実など進路部と担任の連携を図る。

##### (6) 健康・安全

- ・学校保健計画及び学校安全計画により、保護者と連携して向上に努める。“安全”を最優先し学校生活が快適に過ごせるようにする。

## 学校運営連絡協議会報告

### 6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
6	1					1

### 7 その他

- ・保護者のアンケートの回収率を向上させるための工夫が必要である。生徒については、100%回収の実施を目指す。
- ・アンケート項目については、本年度で3年間が経過した。来年度からは、より魅力的な学校づくりに資するため改訂を行う。
- ・回答について、課題に対する回答が多く総合的な視点での回答となるような工夫が必要である。
- ・協議委員の方々にできる限り本校学校行事を参観していただき率直なご意見を伺いたい。



# 資料 20年振り返って

## 1. 教職員一覧

	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
校長	滝口 輝男	平2~																			
	今野 寛雄																				
	楠原 純子																				
	梅村 和伸																				
	山下 貢																				
	赤羽 克己																				
副校長 (教頭)	浅井 嘉平																				
	武田 祐治																				
	中西 克弘																				
	寶楨 広																				
	佐藤 光一																				
	善本 久子																				
室長 (事務長)	神永 庄一																				
	東 信幸																				
	矢口 正孝																				
	福 伸太郎																				
	北内 康夫																				
	内山 信弘																				
国語	山本 慎一																				
	金子眞次郎																				
	大原 啓一																				
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
	林 悅三	昭63~																			
	田子 雅子	平3~																			
地歴 公民 社会	高橋 誠治	昭59~																			
	江渡 大輔	昭51~																			
	藤田 隆	昭61~																			
	菊地 尚人	昭56~																			
	橋本 洋介	昭62~																			
	荒井 整	昭62~																			
国語	堀家まり子	昭59~																			
	山口 孝美																				
	渡辺 聰哉																				
	内山 貴子																				
	佐藤 幸司																				
	北川 真理																				
国語	服部 玲子																				
	今村扶貴子																				
	中溝比呂志																				
	佐藤みどり																				
	滝口 正																				
	相川 恵子																				
国語	三谷 愛子																				
	熊倉 正一																				
	佐藤 康代																				
	鈴木千佳代																				
	森田 幸子																				
	右田 恭之																				
国語	荻野 恵																				
	三谷 栄紀																				
	川口 祥子																				
	節丸 恭生																				
地歴 公民 社会	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
	鈴木みち子	昭62~																			
	岩根 謙一	昭59~																			
	長谷川義晃	昭60~																			
	結城 健三	昭59~																			

非常勤教員

嘱託

# 資料 20年振り返って

	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
地歴・公民政(社会)	福田 修一	平3~																			
	三浦 裕	平2~																			
	椿 治子	昭59~																			
	永倉 薫	昭63~																			
	小野 昭博	平2~																			
	古賀 卓																				
	田中 久雄																				
	岩橋 正人																				
	樋口 兼久																				
	瀬川 泰兼																				
	松澤由美子																				
	平井 啓一																				
	宮澤 真二																				
	川副 聰																				
	塩貝 進一																				
	関口 英之																				
	福田 元昭																				
	片桐 秀一																				
	青野 弘一																				
	荒井 剛																				
	武藤 亮																				
	川島 理大																				
	山崎 裕康																				
	高木 明																				
	有井 敏恭																				
	関根 秋雄																				
	小松 公平																				
数学生	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
	石部 武子	昭54~																			
	名倉 敏生	昭50~																			
	宮崎 順介	昭56~																			
	鈴木 政之	昭58~																			
	松沢 亮	昭62~																			
	島田 礼子	昭59~																			
	加藤 晴紀	昭60~																			
	豊山 肇																				
	佐々木雅人																				
	齋藤 剛慶																				
	浜詰 均																				
	香取 良平																				
	森田 美雪																				
	関口 千春																				
	榎 和恵																				
	伊藤 秀雄																				
	大山 武彦																				
	矢部 真吾																				
	高井 正木																				
	田村 克之																				
	芦田 浩敏																				
	植竹 完氏																				
	梅川 良視																				
	黒澤 正信																				
	矢後 郁子																				
	山口 貴史																				
	山根 恭一																				
	松本 良男																				
	在原 有紀																				
	松井 秀夫																				
	伊藤 信通																				
	染谷 弘	平3~																			

# 資料 20年振り返って

	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
理科	高橋 公治	平元~																			
	都丸 豊	昭59~																			
	渡辺 隆	昭59~																			
	神田 亮二	昭60~																			
	小松 裕明	昭61~																			
	静野 哲也																				
	桂田 和子	昭61~																			
	青柳 一好																				
	中村 哲																				
	井田屋文夫																				
	伊勢 俊郎																				
	小林 誠																				
	小林 光明																				
	鞍掛 修																				
	鈴木 裕司																				
	川崎 洋子																				
	大野 智久																				
	笠原 一郎																				
	川口 清隆																				
	輿水 文三																				
	塩野 浩伸																				
	只木 薫																				
	高橋 洋一																				
	吉永 順一																				
	藤岡 恒久																				
	鈴木 二郎																				
	斎藤 三男																				
	徳島 紳義																				
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
保健体育	大橋 書児	昭59~																			
	桑原 忍	昭48~																			
	横澤 明翁	昭59~																			
	小川 敏子	昭49~																			
	長津 平二	平3~																			
	松元 敏雄	昭63~																			
	大場 和仁	平3~																			
	楳原 信二																				
	鈴木 美津																				
	鈴木 裕太																				
	鹿俣 聰																				
	朝倉 知子																				
	池田 茂樹																				
	井上 充司																				
	神原 一恵																				
	清水 智之																				
	抱山 公彦																				
	安達 和行																				
	井口 守																				
	佐々木寿子																				
	野村 健一																				
	柳浦 康宏																				
	寺本 正誼																				
	桑原 忍																				
	稻垣 雅彦																				
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
芸術	大辻 敏成	昭61~																			
	矢沢 千宣	昭62~																			
	岡村 繁																				
	戸塚 智子																				
	伊藤 由紀																				

# 資料 20年振り返って

	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
芸術	石井恵理子																				
	猿川 匠																				
	瀬戸 宏																				
	佐藤 勉																				
	阿部 真琴																				
	河瀬 昇																	非常勤教員			
	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
英語	小坂 明子	昭56~																			
	牧 普也	昭58~																			
	田尾 房子																				
	米山 和子	昭59~																			
	相澤 健夫	昭59~																			
	戸叶美代子	昭59~																			
	久保田清二	昭63~																			
	酒井 孝元																				
	足立 明美																				
	不殿 譲																				
	國府方 進																				
	渡部 千明																				
	山本 孝二																				
	松内 晴美																				
	本村 肇																				
	吉政 祥子																				
	金子 茂雄																				
	牛嶋 園江																				
	松澤 郁文																				
	穂坂 聰子																				
	岡本 謙一																				
	石川 一郎																				
	板垣 厚子																				
	乙幡 博之																				
	小嶋 和代																				
	杉野 文栄																				
	杉山 朱美																				
	田嶋 英治																				
	渡邊 宏二																				
	大西 恵理																				
	永井 敏之																				
	川上みづほ																				
	中村 誠																				
	田中 学																				
	永山 繁子																				
	小山 俊子																				
	金 和男	平2~																			
	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
家庭	松橋由紀美	平2~																			
	河村 美穂																				
	長田 光子																				
	七森 佳子																				
	鶴澤 裕																				
	飯坂美枝子																				
	古屋 知子																				
	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
情報	鶴澤 裕																				
	綿貫 俊之																				
	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
養護	浅井由紀子																				
	石原 恵子																				
	竜田 昭子																				
	福井 敬子																				

# 資料 20年を振り返って

	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
実習助手	平賀 智子	平3~																				
	渡辺美弥子																					
	鈴木 史子																					
	秋元 武史																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
司書	東海林 操	平3~																				
	番場由紀子																					
	中村 崇																					
	伊井 淳子																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	杉 健二	平2~																				
	木田くみ子																					
	吉川 陽子	昭61~																				
	日野富士夫	平2~																				
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	米岡 千寿																					
	滝島 浩子																					
	三坂くみ子																					
	久保田正明																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	吉永 文博																					
	大友 美和																					
	高野 真理																					
	池田 敏子																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	関口富士子																					
	守山 義一																					
	吉永 文博																					
	池原 祐子																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	松井 康一																					
	田村真生子																					
	春山 正夫																					
	永見佳奈子																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	三尾 明聖																					
	今井 啓美																					
	下田 優子																					
	楠田 進																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	内田 康彦																					
	豊田 千早																					
	尾上阿也子																					
	春山 祐子																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
般事務	鈴木 博																					
	林 涼子																					
	鈴木 恭子																					
	高木千恵子																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
技能	石井 理万																					
		氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
	高田 和亮	平元~																				
	高木 正																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
技能	清水 教夫	平2~																				
	大浦 幸子																					
	猿楽 和幸																					
	菅原 邦夫																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
技能	萩原 春雄																					
	柳 忠司																					
	山下キヨ子	昭60~																				
	伊藤 和司																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
技能	山岸 孝雄																					
	土岐公湖子																					
	大久保京子																					
	和田 亘弘																					
	氏名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
技能	稻村美枝子																					
	篠原 公枝																					

資料 20年を振り返って

	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
技能	井上 伸次																				
	樟山 誠																				
	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
警備	田端 三郎	昭52~																			
	橋本 節夫	昭54~																			
	犬養 克和																				
	山本 正廣																				
	氏名	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
講師	高橋 寿臣	世史	昭52~																		
	生長 肇子	美術	平元~																		
	鶴巻 洋志	生物																			
	真島 芳子	英語																			
	斎藤 洋二	音楽																			
	中根 佳子	家庭																			
	桑名有米子	家庭																			
	友部 武彦	日史																			
	高橋 幸郎	美術																			
	宮崎 靖子	地学																			
	瀬沼 尚	地歴																			
	檜山 時恵	家庭																			
	石川 悅子	化学																			
	東野恵美子	数学																			
	吉野 賢一	理科																			
	林 敏子	音楽																			
	樋口 康子	理科																			
	前田 哲郎	理科																			
	桃 文行	数学																			
	石田 勇作	地公																			
	名倉 和子	体育																			
	佐久間あき子	芸術																			
	戸叶美代子	英語																			
	宮澤 紀子	体育																			
	金山 阿希	体育																			
	高木貴久子	体育																			
	吉岡百々子	書道	昭63~																		
	鹿倉 紳	国語																			
	渋谷みどり	家庭																			
	伊川 憲子	英語																			
	飯坂 玲子	数学																			
	藤岡 恒久	地学																			
	國府方 進	英語																			
	川口明日香	美術																			
	宮澤 豪	地歴																			
	高山 愛	数学																			
	将口美恵子	情報																			
	亀田絵里香	書道																			
	喜入裕基子	書道																			
	青野 晴江	家庭																			
	千葉 彩	家庭																			
	内藤 明美	家庭																			

## 2. 担任一覧・卒業生数

平成22年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	平成22年度 卒業生
3年次	安達 和行	輿水 文三	荒井 剛	小嶋 和代	中溝比呂志	梅川 良視	239
2年次	安達 和行	輿水 文三	荒井 剛	小嶋 和代	中溝比呂志	梅川 良視	
1年次	中溝比呂志	小嶋 和代	安達 和行	荒井 剛	輿水 文三	梅川 良視	
平成21年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	平成21年度 卒業生
3年次	瀬戸 宏	大野 智久	青野 弘一	矢後 郁子	田嶋 英治	佐藤 康代	238
2年次	瀬戸 宏	大野 智久	青野 弘一	矢後 郁子	田嶋 英治	佐藤 康代	
1年次	佐藤 康代	瀬戸 宏	矢後 郁子	青野 弘一	田嶋 英治	大野 智久	
平成20年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	平成20年度 卒業生
3年次	黒澤 正信	乙幡 博之	田村 克之	穂坂 聰子	関口 英之	抱山 公彦	235
2年次	黒澤 正信	乙幡 博之	田村 克之	穂坂 聰子	関口 英之	抱山 公彦	
1年次	抱山 公彦	黒澤 正信	田村 克之	関口 英之	乙幡 博之	穂坂 聰子	
平成19年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
3年次	相川 恵子	渡邊 宏二	飯坂美枝子	柳浦 康宏	岡本 謙一	高井 正木	熊倉 正一
2年次	相川 恵子	渡邊 宏二	飯坂美枝子	柳浦 康宏	岡本 謙一	高井 正木	熊倉 正一
1年次	高井 正木	飯坂美枝子	岡本 謙一	柳浦 康宏	鈴木 裕司	相川 恵子	熊倉 正一
平成18年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
3年次	井上 充司	板垣 厚子	片桐 秀一	鞍掛 修	三谷 愛子	滝口 正	矢部 真吾
2年次	井上 充司	板垣 厚子	片桐 秀一	鞍掛 修	三谷 愛子	滝口 正	矢部 真吾
1年次	井上 充司	滝口 正	板垣 厚子	片桐 秀一	三谷 愛子	鞍掛 修	矢部 真吾
平成17年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
3年次	野村 健一	川崎 洋子	杉野 文栄	佐藤みどり	大山 武彦	小林 光明	福田 元昭
2年次	野村 健一	川崎 洋子	杉野 文栄	佐藤みどり	大山 武彦	小林 光明	福田 元昭
1年次	大山 武彦	野村 健一	小林 光明	杉野 文栄	樋口 兼久	宮澤 眞二	内山 貴子
平成16年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
3年次	朝倉 知子	穂坂 聰子	田村 克之	中溝比呂志	牛嶋 園江	小林 誠	塩貝 進一
2年次	鹿俣 聰	吉政 祥子	香取 良平	中溝比呂志	牛嶋 園江	小林 誠	塩貝 進一
1年次	鹿俣 聰	牛嶋 園江	吉政 祥子	中溝比呂志	塩貝 進一	小林 誠	香取 良平
平成15年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
3年次	鈴木 裕太	山本 孝二	平井 啓一	松内 晴美	井田屋文夫	服部 玲子	川副 聰
2年次	鈴木 裕太	山本 孝二	平井 啓一	森田 深雪	井田屋文夫	服部 玲子	川副 聰
1年次	山本 孝二	服部 玲子	平井 啓一	鈴木 裕太	森田 深雪	井田屋文夫	川副 聰
平成14年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
3年次	松内 晴美	鞍掛 修	山口 孝美	清水 智之	石井恵理子	齋藤 剛慶	関口 英之
2年次	松内 晴美	鞍掛 修	山口 孝美	清水 智之	石井恵理子	齋藤 剛慶	不殿 讓
1年次	松内 晴美	清水 智之	山口 孝美	豊山 肇	鞍掛 修	齋藤 剛慶	石井恵理子
平成13年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
3年次	伊藤 由紀	楳原 信二	北川 真理	浜詰 均	國府方 進	長田 光子	瀬川 康兼
2年次	伊藤 由紀	楳原 信二	北川 真理	浜詰 均	國府方 進	長田 光子	瀬川 康兼
1年次	楳原 信二	伊藤 由紀	國府方 進	浜詰 均	北川 真理	長田 光子	瀬川 康兼

# 資料 20年を振り返って

平成12年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	平成12年度 卒業生
3年次	伊勢 俊郎	榎 和恵	鈴木 裕太	足立 明美	酒井 孝元	佐藤 幸司	鹿俣 聰	282
2年次	伊勢 俊郎	榎 和恵	松澤由美子	足立 明美	酒井 孝元	佐藤 幸司	鹿俣 聰	
1年次	鹿俣 聰	榎 和恵	酒井 孝元	足立 明美	伊勢 俊郎	松澤由美子	佐藤 幸司	
平成11年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	平成11年度 卒業生
3年次	久保田精二	樋口 兼久	内山 貴子	渡辺 聰哉	鈴木 美津	伊藤 秀雄	桂田 和子	269
2年次	久保田精二	樋口 兼久	内山 貴子	渡辺 聰哉	鈴木 美津	伊藤 秀雄	桂田 和子	
1年次	樋口 兼久	鈴木 美津	渡辺 聰哉	内山 貴子	伊藤 秀雄	桂田 和子	久保田清二	
平成10年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	平成10年度 卒業生
3年次	戸叶美代子	橋本 洋介	豊山 肇	岩橋 正人	中村 哲	松元 敏雄	河村 美穂	274
2年次	戸叶美代子	橋本 洋介	加藤 晴紀	岩橋 正人	中村 哲	松元 敏雄	河村 美穂	
1年次	松元 敏雄	中村 哲	加藤 晴紀	橋本 洋介	戸叶美代子	河村 美穂	岩崎 正人	
平成9年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組
3年次	松沢 亮	鈴木みち子	大場 和仁	堀家まり子	佐々木雅人	松内 晴美	國府 方進	小松 裕明
2年次	松沢 亮	鈴木みち子	大場 和仁	堀家まり子	佐々木雅人	松内 晴美	國府 方進	青柳 一良
1年次	大場 和仁	岡村 繁	國府 方進	佐々木雅人	堀家まり子	青柳 一好	鈴木みち子	松内 晴美
平成8年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組
3年次	荒井 整	戸塚 智子	静野 哲也	楳原 信二	豊山 肇	山口 孝美	田中 久雄	田尾 房子
2年次	荒井 整	戸塚 智子	静野 哲也	楳原 信二	豊山 肇	山口 孝美	田中 久雄	田尾 房子
1年次	荒井 整	戸塚 智子	田中 久雄	都丸 豊	豊山 肇	田尾 房子	楳原 信二	山口 孝美
平成7年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組
3年次	島田 礼子	相沢 健夫	藤田 隆	桂田 和子	足立 明美	古賀 卓	鹿俣 聰	小松 裕明
2年次	島田 礼子	相沢 健夫	藤田 隆	桂田 和子	足立 明美	古賀 卓	鹿俣 聰	小松 裕明
1年次	島田 礼子	相沢 健夫	藤田 隆	桂田 和子	足立 明美	古賀 卓	横澤 明翁	小松 裕明
平成6年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組
3年次	松沢 亮	長津 平二	田子 雅子	久保田清二	米山 和子	松橋由紀美	神田 亮二	福田 修一
2年次	松沢 亮	長津 平二	田子 雅子	久保田清二	米山 和子	松橋由紀美	神田 亮二	福田 修一
1年次	松沢 亮	長津 平二	田子 雅子	久保田清二	大辻 敏成	松橋由紀美	神田 亮二	福田 修一
平成5年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組
3年次	青柳 一好	橋本 洋介	戸叶美代子	國府方 進	堀家まり子	小野 昭博	宮崎 順介	鈴木 政之
2年次	青柳 一好	橋本 洋介	戸叶美代子	國府方 進	堀家まり子	小野 昭博	宮崎 順介	鈴木 政之
1年次	矢沢 千宣	橋本 洋介	戸叶美代子	國府方 進	小野 昭博	幾島 和子	宮崎 順介	鈴木 政之
平成4年度 卒業生	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組
3年次	松元 敏雄	高橋 誠治	加藤 晴紀	牧 晋也	岩根 謙一	渡辺 隆	大橋 書児	石部 武子
2年次	松元 敏雄	高橋 誠治	加藤 晴紀	牧 晋也	岩根 謙一	渡辺 隆	大橋 書児	石部 武子
1年次	松元 敏雄	高橋 誠治	加藤 晴紀	牧 晋也	岩根 謙一	渡辺 隆	大橋 書児	石部 武子
								I組
								402
								405

## 3. 進路資料

左：現役生 右：卒業生

大学名	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
大学名	1	10	4	8	8	6	5	1	12	1
青山学院	3	7	3	7	3	4	2	5	3	3
学習院	5	2	7		3	3	4	1	2	4
慶應	2		2	1	2	3	1	1	1	1
上智	1	1		1	3	3		2	1	1
中央	2	11	4	8	5	9	1	3	2	1
明治	1	9	2	12	3	5	1	8	4	1
立教	2	1	2	4	1	6	1	1	4	2
早稲田	4	3	6	1	4		5	3	1	1
津田塾	1		2				1		1	1
東京女子	1	2					1	1		5
國學院	1	6	2	1		2	1	2	4	1
國士館	3		1	2	6		4	2	1	4
駒沢		11		11	2	7	12	1	6	3
成蹊	5	11	7	9	9	9	1	4	7	7
専修	4	8	4	6	4	1	4	6	5	6
大東文化	3	19	6	24	9	12	8	3	5	6
東洋	5	31	8	21	13	23	9	26	16	12
日本	2	12	10	21	8	16	10	24	15	14
法政	3	12	5	16	3	22	2	14	16	12
武藏	1	11	4	4	6	6	1	6	5	5
東京電機		6		2	5	8	2	9	7	11
東京理科		4	1	1	2		1	4	7	3
國立音楽			2	3	3	2		3	1	4
多摩美術										2
武蔵野音楽		8	2		3		1	1	2	1
武蔵野美術						1		1	2	1
短期 大学	120	38	127	20	102	54	78	17	82	6
専門 学校	55	15	68	10	53	5	67	13	69	6
就 職	9		7		6		2		8	

大学名	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
大学名	2	2	2	3	3	8	2	4	4	2
青山学院	2	3	4	1	3	6	2	2	3	5
学習院	3	2	4	3	6		4	1	3	2
慶應	1			2			1			2
上智		3	1	1			1	1	4	1
中央		10	3	5	3	10	2	7	3	7
明治	6	4	2	11	4	4	5	3	6	2
立教	3	1	4	5	4	2	4	3	5	1
早稲田		3	3	1	3	1	2	8	3	3
津田塾										5
東京女子		3	1					4		
國學院	1	3	3	1	1	2	1	2	3	3
國士館	3	1	3	1	5		4		9	1
駒沢	5	1	3	3	4	1	4	5	13	11
成蹊	8	4	10	8	10	3	17	1	7	10
専修	6	1	5	1	3	1	4	3	5	8
大東文化		10	2	3	1	4	7	14	3	6
東洋	27	15	22	11	9	8	22	10	27	29
日本	18	12	22	4	12	11	9	12	11	38
法政	8	6	9	12	6	4	11	6	15	4
武藏	22	6	14	6	6	4	13	1	11	7
東京電機	2	1	1	5	7	1	5	8	9	12
東京理科	2	5	1	7	2	4		7	1	11
國立音楽			2		4	2		1	2	6
多摩美術										2
武蔵野音楽	1		1		1		1		2	1
武蔵野美術			1	3	1	1	2			1
短期 大学	24	4	31	1	20	4	18	2	28	19
専門 学校	50	5	41	7	37	7	42	5	32	40
就 職	6		2		1		2	7	3	3

# 編集後記

## 編集後記

本記念誌制作にあたりまして寄稿していただきました皆様方に心より感謝いたします。いただいたこうした思いがまことに井草高校の財産であって、現在井草高校の安定した生徒募集活動や落ち着いた授業に活かされていると感じます。現在の教職員もこうした思いに十分に応えて将来への種をいくつも育てているところです。ただ個々の活動が将来にわたり成果を生むためには学校全体の取り組みへと昇華していかねばならぬものもあります。今有する有形無形の財産の付加価値を少しでも高めて未来に引き継ぐことが私たちの責務と考え、今後とも努力してまいりたいと思います。

編集委員 中溝比呂志  
相川恵子  
野村健一  
編集補助 大原啓一  
石井理万

### 東京都立井草高等学校 創立70周年記念誌

発行 平成23年10月13日  
東京都立井草高等学校  
〒177-0044 練馬区上石神井2-2-43

編集 創立70周年記念誌編集委員会

製作 有限会社 福本印刷所  
〒120-0006 東京都足立区谷中1-8-9

 PRINTED WITH SOYINK 古紙パルプ配合紙を使用し  
大豆油インキで印刷しています



